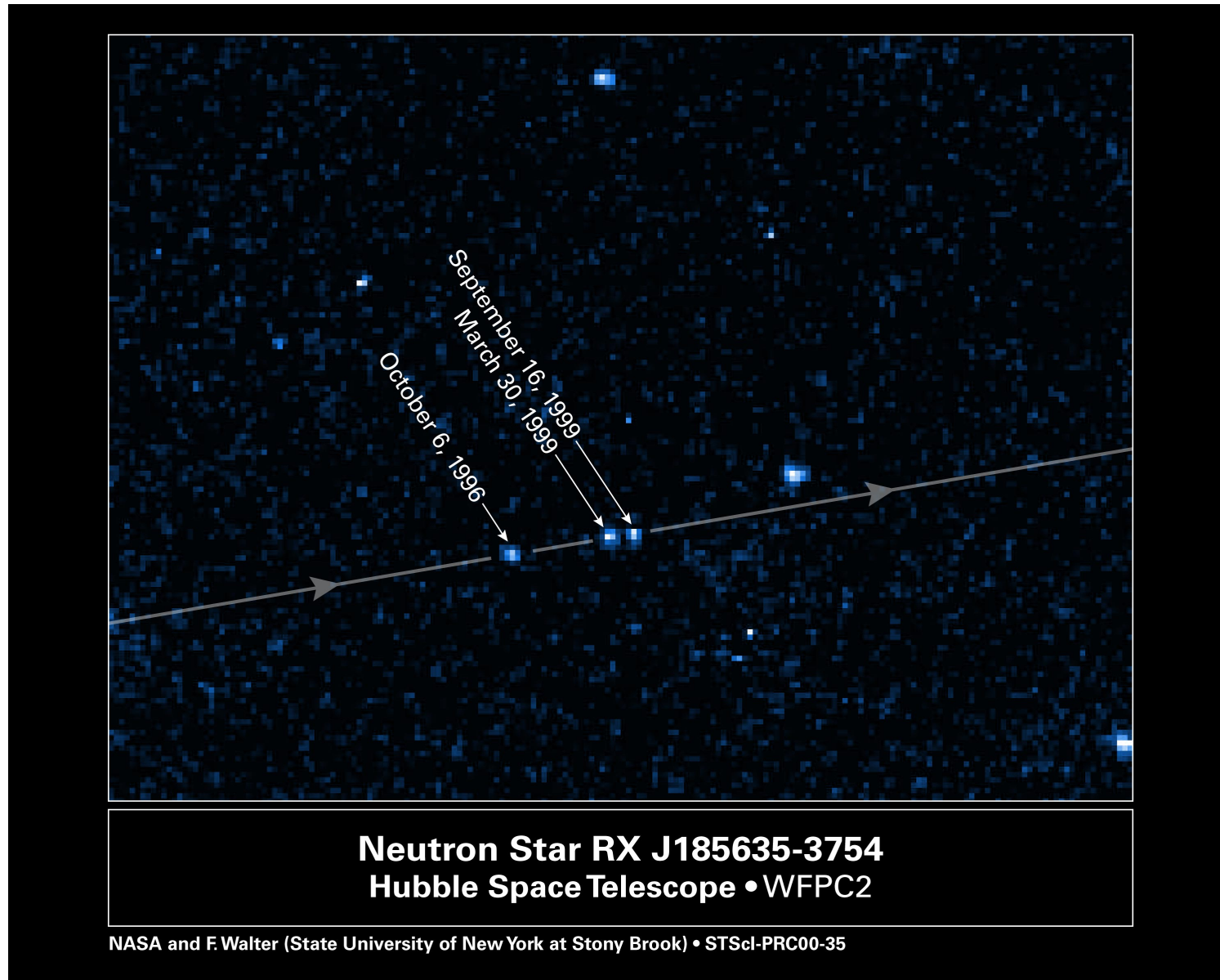


極限物質の性質を決めるには？

中性子星：状態方程式の基本

Hubble Sees Bare Neutron Star Streaking Across Space



Isolated neutron star: 200 light year away, 1 million year old

中性子星内部の物質

・ 高密度物質の実験室

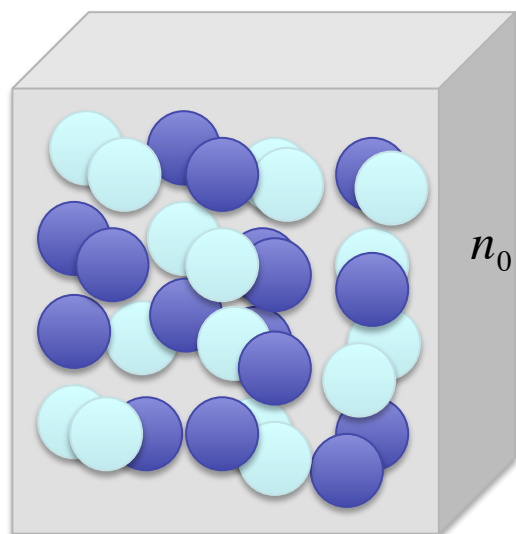
- 核物質の性質から中性子星へ
- 中性子星の観測から核物質を探る

質量: $M_{NS} \sim 1.4 M_{\text{solar}}$
半径: $R_{NS} \sim 10 \text{ km}$

・ エネルギー・組成はどうなっているのか?

- 密度に応じて起こる組成変化(陽子, 中性子の割合?)
- どの密度で、何が混ざるのか (Hyperon, Quark?)

核物質



$$n_0 = 0.16 \text{ fm}^{-3}$$

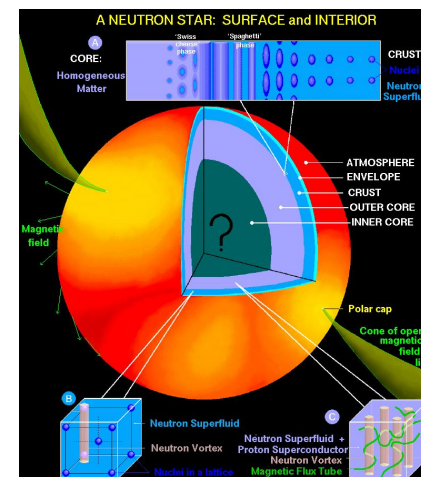
予測



制限



中性子星の観測

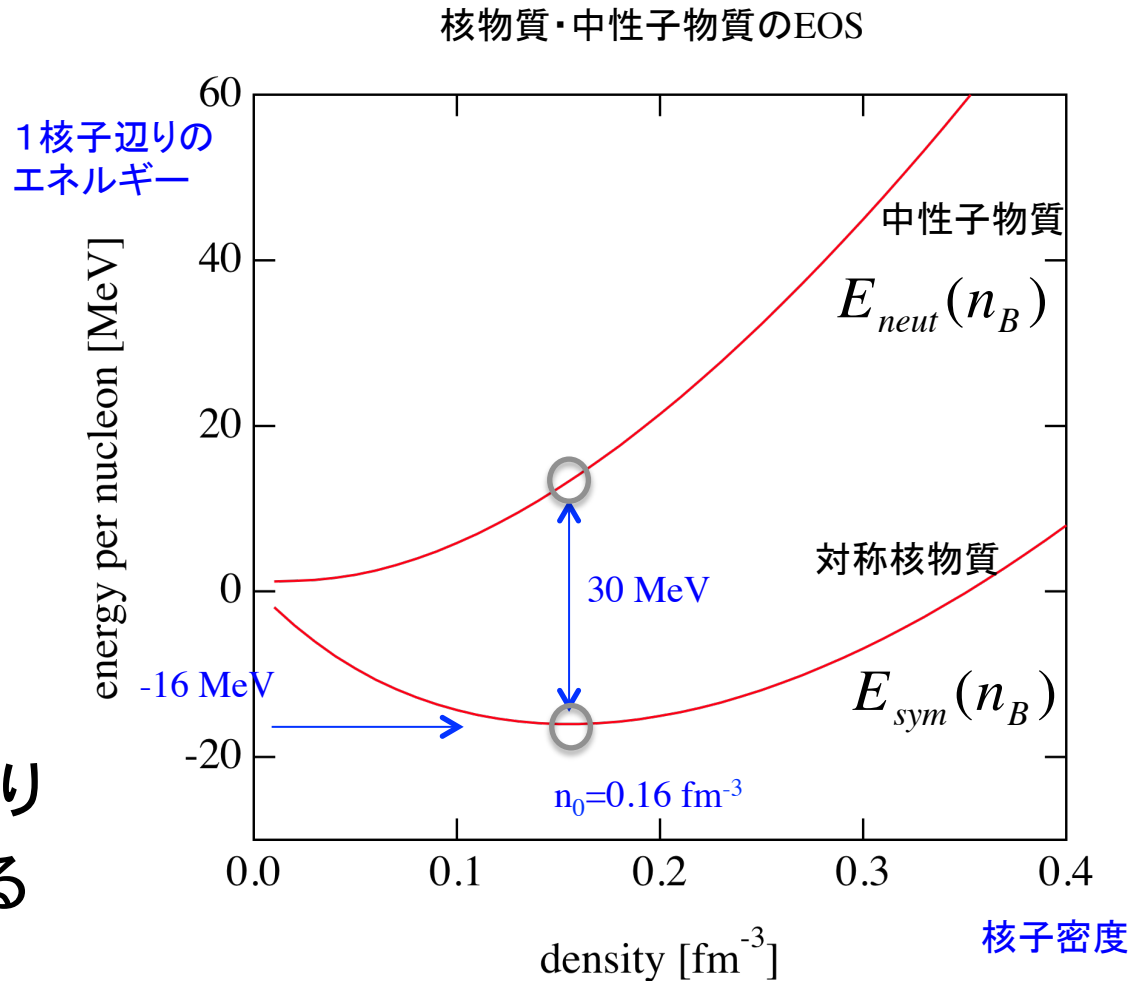


$$\rho_{NS} = \frac{M_{NS}}{\frac{4\pi}{3} R_{NS}^3} \sim 0.4 \text{ fm}^{-3}$$

<http://www.astro.umd.edu/~miller/nstar.html>

中性子星の状態方程式 Equation of state (EOS)

- ・ 対称核物質
- ・ 中性子物質
- ・ 中性子星へ
 - 中性子だけ?
 - 安定な物質は
- ・ 超新星では
 - Feコアから始まり
 - 中性子星へ至る
- ・ どんな量で特徴づけるか



状態方程式EOSを特徴づける物理量

- ・ 飽和性: $n_0=0.16 \text{ fm}^{-3}$, $E=-16 \text{ MeV}$

- ・ 非圧縮率:

- n_0 での曲率

$$K \equiv 9n_0^2 \left. \frac{d^2 E}{dn^2} \right|_{n=n_0}$$

- $K=240 \text{ MeV}$

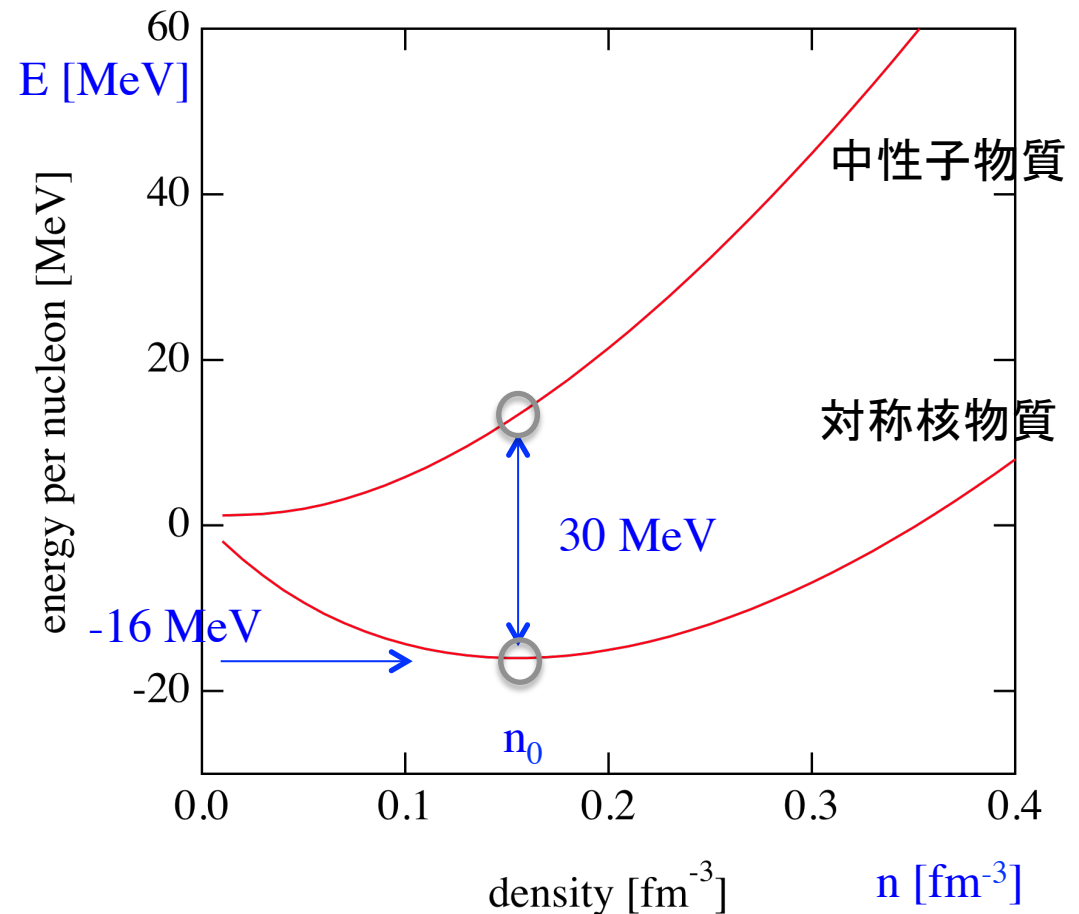
- ・ 対称エネルギー:

- エネルギー差

- $A_{\text{sym}}=30 \text{ MeV}$

- ・ 密度依存性: n^γ

核物質・中性子物質のEOS



一様核物質の状態方程式

- 実験だけでなく理論計算により求める必要がある
 - 中性子が多い (Y_p が小さい)、高密度 ($\rho > \rho_0$) のため実験データは無い
- 本来は核力を用いて微視的な核子多体理論による計算で求める
 - 飽和性の再現、三体力の不定性、収束性などの問題

- 簡単な公式による解析: 中性子星や超新星への応用向け

- Mass formula: $M(A, Z) = Zm_p + (A - Z)m_n - B(A, Z)$

$$-B(A, Z) = -a_{\text{volume}} A + a_{\text{Coulomb}} \frac{Z^2}{A^{1/3}} + a_{\text{Symmetry}} \frac{(N - Z)^2}{A} + a_{\text{Surface}} A^{2/3}$$

- Infinite matter: $A \rightarrow \infty$

$$E(A, Z) \cdot A = -a_{\text{volume}} A + a_{\text{Symmetry}} \frac{(N - Z)^2}{A}$$

- Energy per baryon at nuclear matter density $n = n_0$

$$E = -a_{\text{volume}} + a_{\text{Symmetry}} \frac{(N - Z)^2}{A^2} = -a_{\text{volume}} + a_{\text{Symmetry}} (1 - 2Y_p)^2$$

- より一般的に、他の密度へ拡張して

$$E(n, Y_p) = E_{bulk}(n) + E_{sym}(n) \cdot (1 - 2Y_p)^2$$

- Nuclear matter $Y_p=0.5$

$$E(n, 0.5) = E_{bulk}(n)$$

- Pure neutron matter $Y_p=0$

$$E(n, 0) = E_{bulk}(n) + E_{sym}(n)$$

- Bulk part

$$E_{bulk}(n) = E_0 + \frac{K}{18} \left(\frac{n - n_0}{n_0} \right)^2$$

- Incompressibility

$$K \equiv 9 \frac{dP}{dn} \Big|_{n=n_0} = 9n_0^2 \frac{d^2 E_{bulk}}{dn^2} \Big|_{n=n_0}$$

- 実験データ: $n=n_0$ で $E_{bulk}(n_0) = -16$ MeV, $K=230-250$ MeV

- Symmetry part: $L \equiv 3 \frac{P}{n_0} = 3n_0 \frac{dE_{sym}}{dn} \Big|_{n=n_0}$ $E_{sym}(n) = S_0 + \frac{L}{3n_0} (n - n_0)$

- 実験データより $n=n_0$ で $E_{sym}(n_0) = 28 \sim 34$ MeV, $L=30-120$ MeV

中性子星内部の物質の記述

- ・ 密度(n_B)を与える

核子密度 $n_B = n_p + n_n$

- エネルギー・圧力・組成が決まる

- ・ 温度ゼロ, 中性子のほかに陽子・電子

陽子の割合 $Y_p = \frac{n_p}{n_B}$

- 電氣的に中性、化学平衡

- ・ 陽子・中性子・電子を混ぜて、中性子星物質を作る

- 対称核物質: $Y_p=0.5$ 中性子物質: $Y_p=0.0$

- ・ もっとも安定な(エネルギーが低い)状態が実現

- 中性子星物質: $Y_p=???$

中性子星物質: 化学平衡+荷電中性

- ・ 平衡状態では

- $\mu_n = \mu_p + \mu_e$ (1)

- ・ 全体としては、電荷ゼロ

- $n_p = n_e$ (2)

- ・ 各密度 n で、 $E_{\text{total}} = E(n_B, Y_p) + E_e(n_e)$ を計算して、最小となる Y_p を探す

陽子・中性子混在物質のエネルギー

$$E(n_B, Y_p) = E_{\text{sym}}(n_B) + [E_{\text{neut}}(n_B) - E_{\text{sym}}(n_B)](1 - 2Y_p)^2$$

対称核物質: $E_{\text{sym}}(n_B)$

中性子物質: $E_{\text{neut}}(n_B)$

電子フェルミ気体のエネルギー

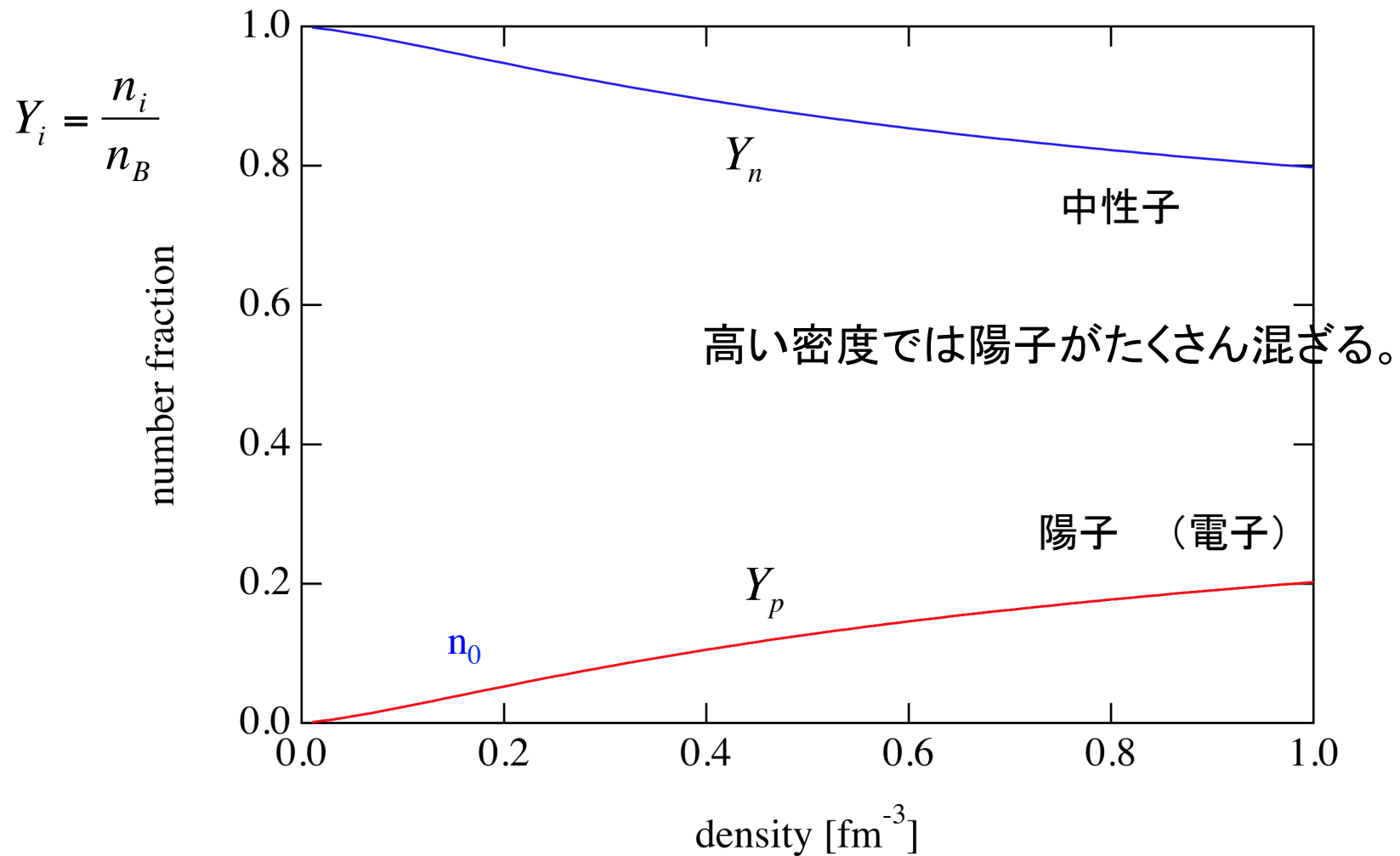
$$E_e = \frac{2}{(2\pi)^3} \int_0^{p_F} E_e \cdot 4\pi p^2 dp = \frac{1}{4\pi^2} p_F^4$$

$$n_e = \frac{2}{(2\pi)^3} \int_0^{p_F} 4\pi p^2 dp = \frac{1}{3\pi^2} p_F^3$$

化学ポテンシャル

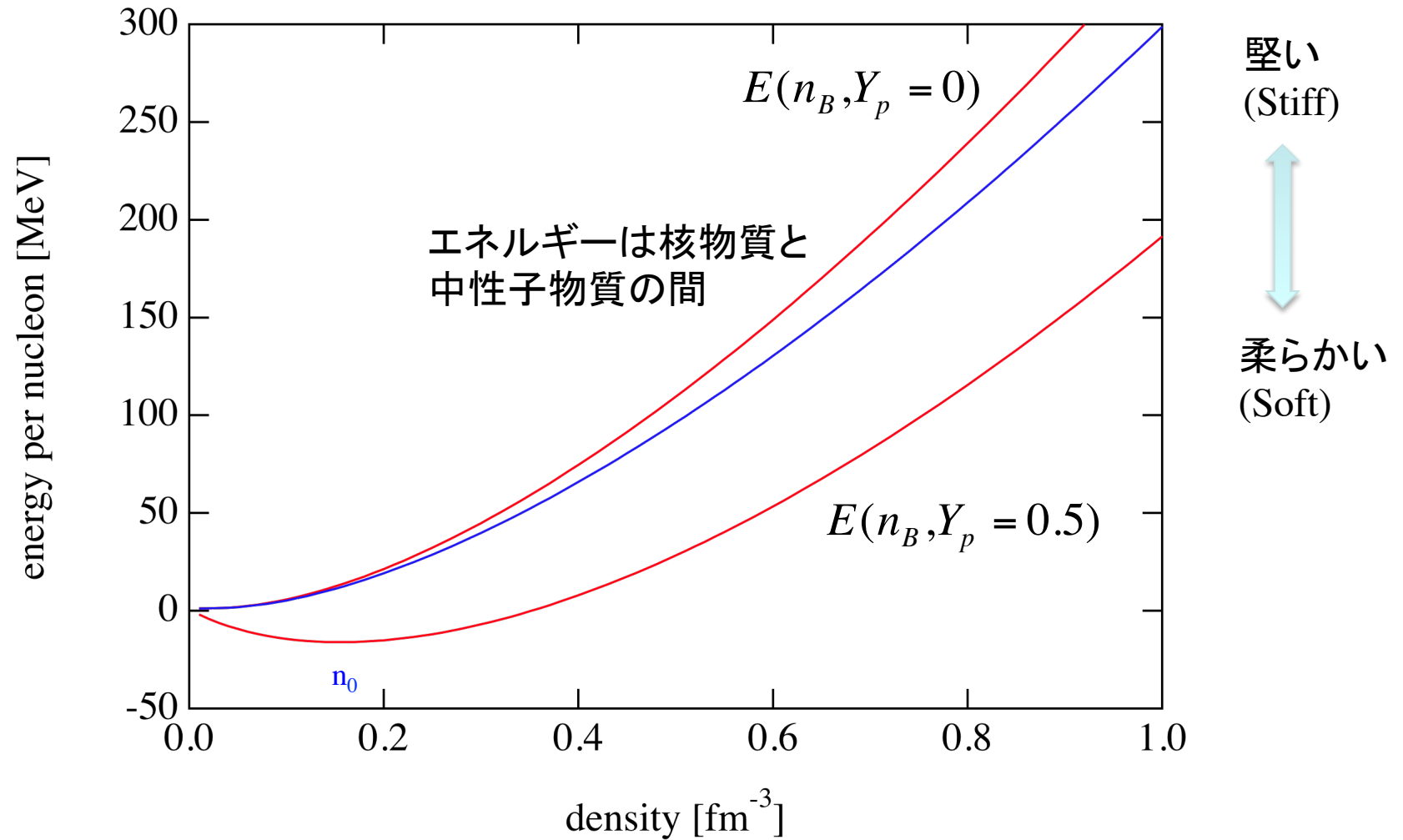
$$\mu_i = \frac{\partial(\varepsilon/n)}{\partial Y_i} = \frac{\partial E}{\partial Y_i} \quad Y_i = \frac{n_i}{n_B}$$

中性子星物質の組成



(ミュー粒子無し)

中性子星物質のエネルギー



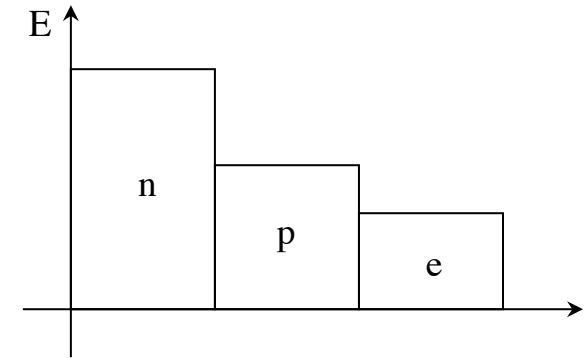
中性子だけではダメなのか？

- ・ 中性子を集めて圧縮する

- 中性子は縮退してFermiエネルギーがあがる
- (a)で中性子は崩壊する、陽子・電子が溜まる

- ・ さらに密度をあげると、中性子崩壊が止まる

- 陽子・電子が縮退する(ニュートリノは逃げていく)
- (a)で放出される電子がPauli blockingされる
- $\mu_e > m_n - m_p$ となれば、(b)が起きる



- ・ 両方向の反応がバランスして進み化学平衡に達する

- Y_p を減らすと、中性子物質としてエネルギーがあがる 両者のバランス
- Y_p を増やすと、陽子・電子の縮退エネルギーがあがる 対称エネルギーによる



中性子星内部での新たな粒子の出現

- ・ 相互作用も含めた縮退エネルギーの振る舞い
- ・ 化学ポテンシャルと粒子質量の比較

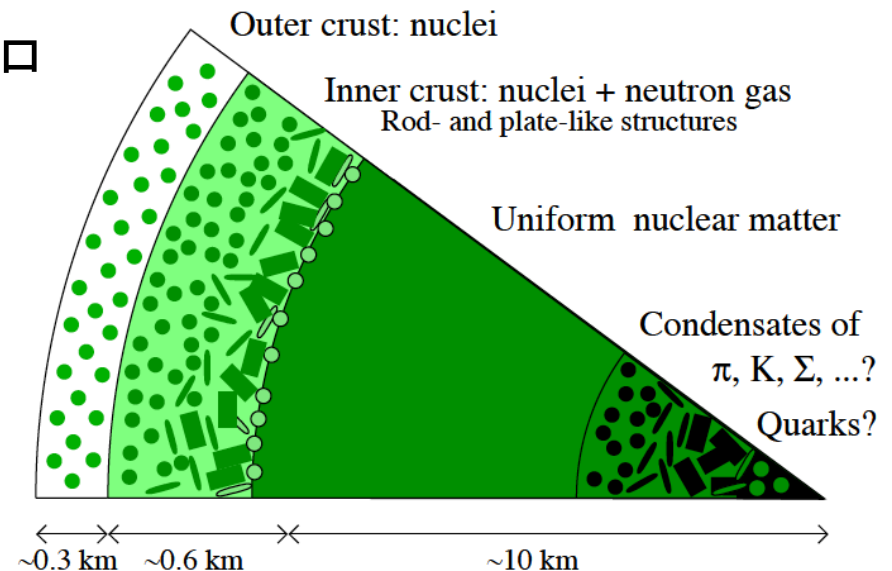
例：電子の化学ポテンシャルがミュー粒子の質量を超える

ミュー粒子が出現

例：中性子の化学ポテンシャルがハイペロン粒子の質量を超える

ハイペロンが出現

さらに高密度では、クォーク相や様々な存在形態が現れうる



新たな粒子の出現？

- 例: μ^- in n-p-e gas

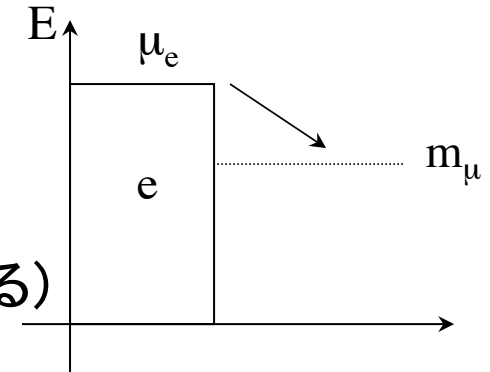
- Decay in free space: $\mu^- \rightarrow e^- + \bar{\nu}_\mu + \nu_e$

- At high density: $\mu_e \uparrow$ となると、

- $\mu_e > m_\mu = 105 \text{ MeV}$ で μ^- が出現 (Fermi面を下げる)

- μ^- を含む β 平衡となる ($\mu^- \Leftrightarrow e^-$)

- $n_p = n_e + n_\mu, \mu_e = \mu_\mu$



- 同様に

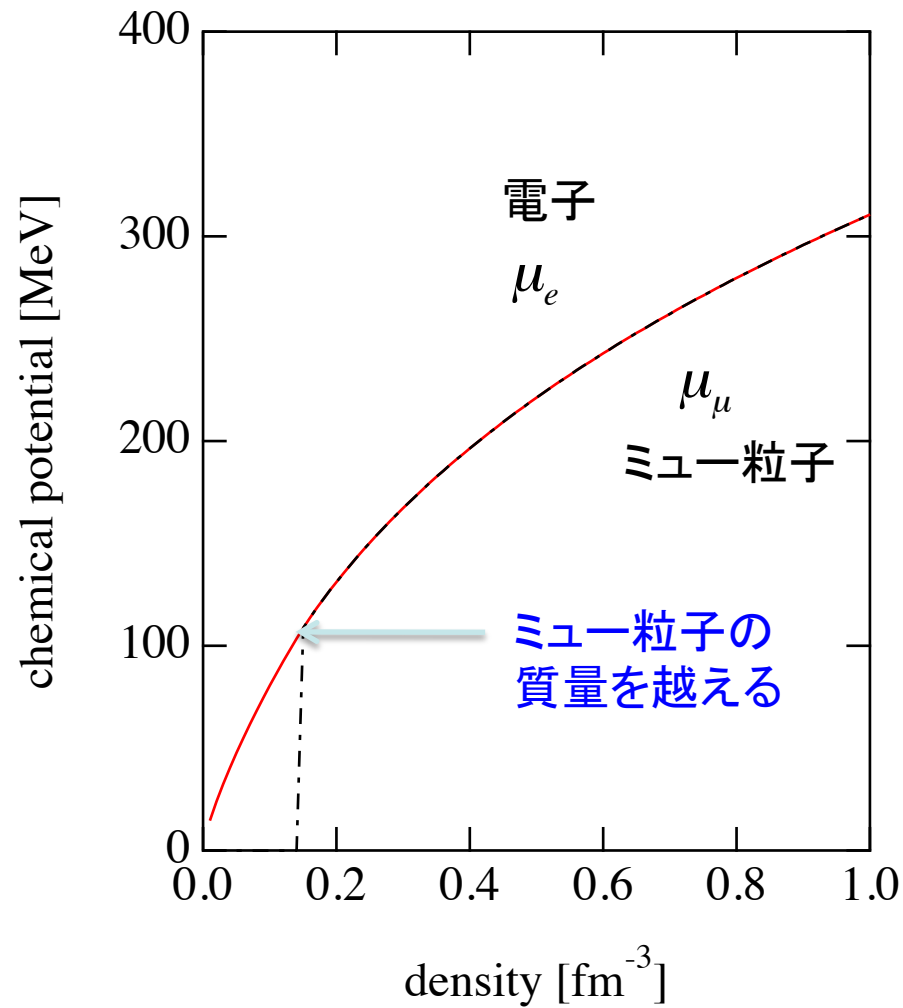
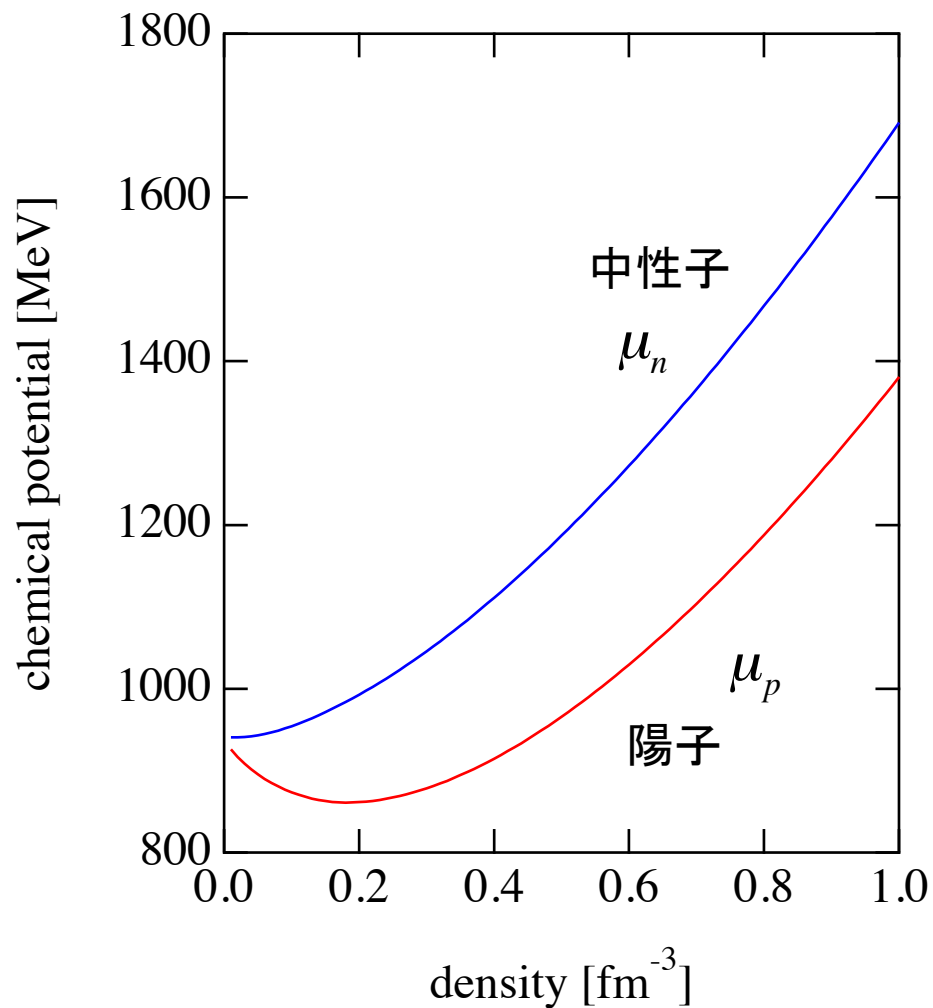
- $N + N \rightarrow N + \Lambda + \text{leptons}$ $\mu_\Lambda = \mu_n > m_\Lambda = 1115 \text{ MeV}$

- $N + n \rightarrow N + p + \pi^-$ $\mu_n - \mu_p = \mu_\pi (= \mu_e) > m_\pi = 140 \text{ MeV}$

- 化学ポテンシャルを調べる → エキゾチック粒子の出現予測

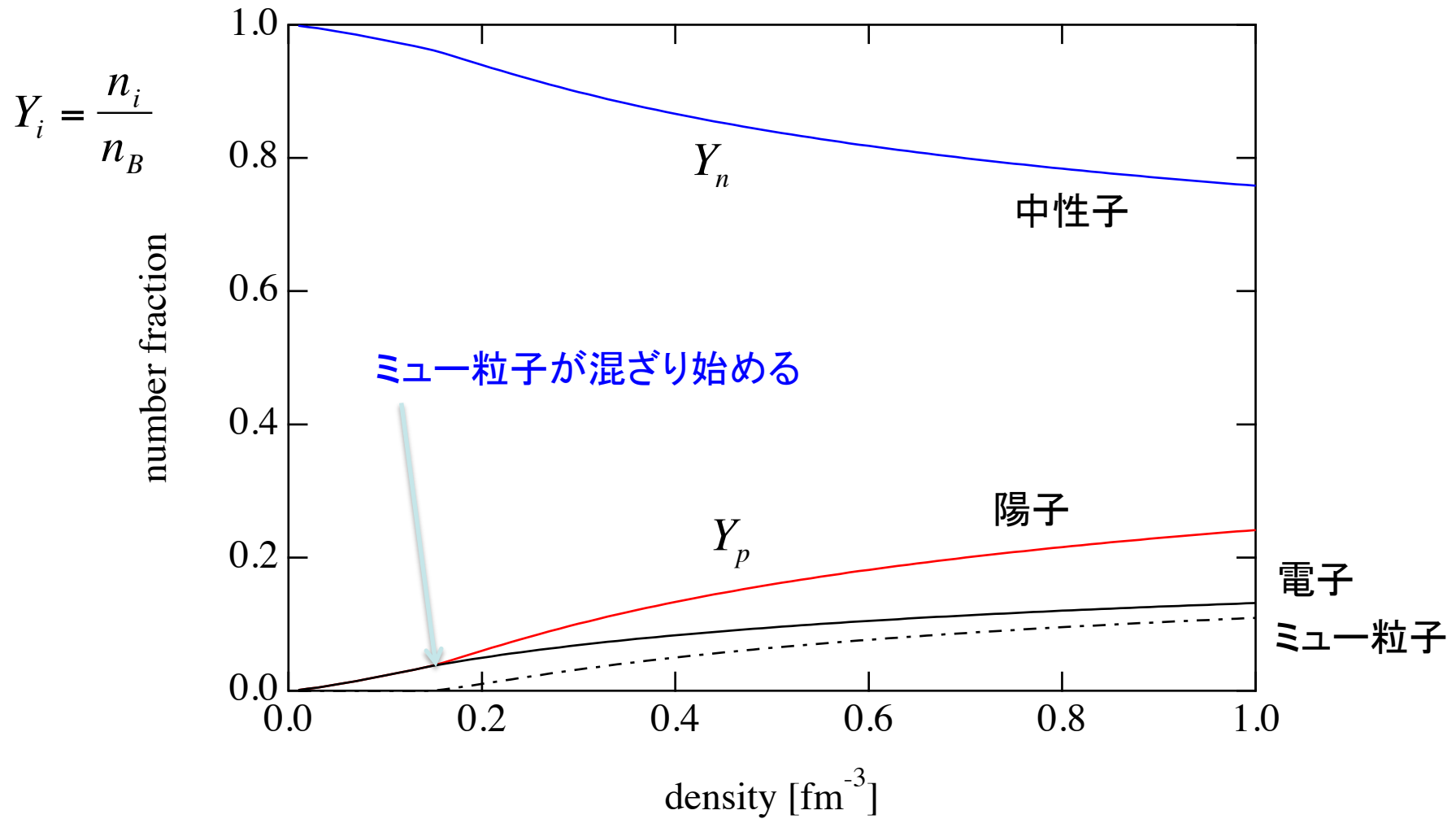
中性子星物質での化学ポテンシャル

(ミュー粒子有り)



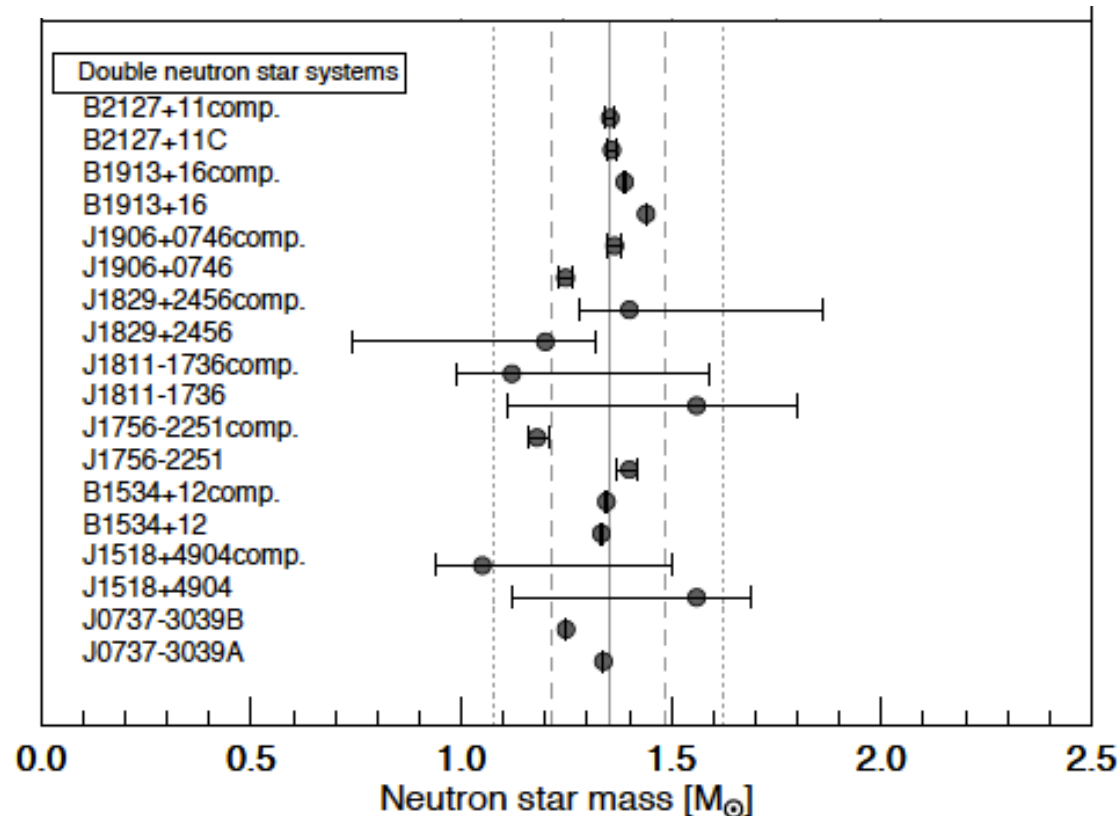
中性子星物質の組成

(ミュー粒子有り)



中性子星の構造

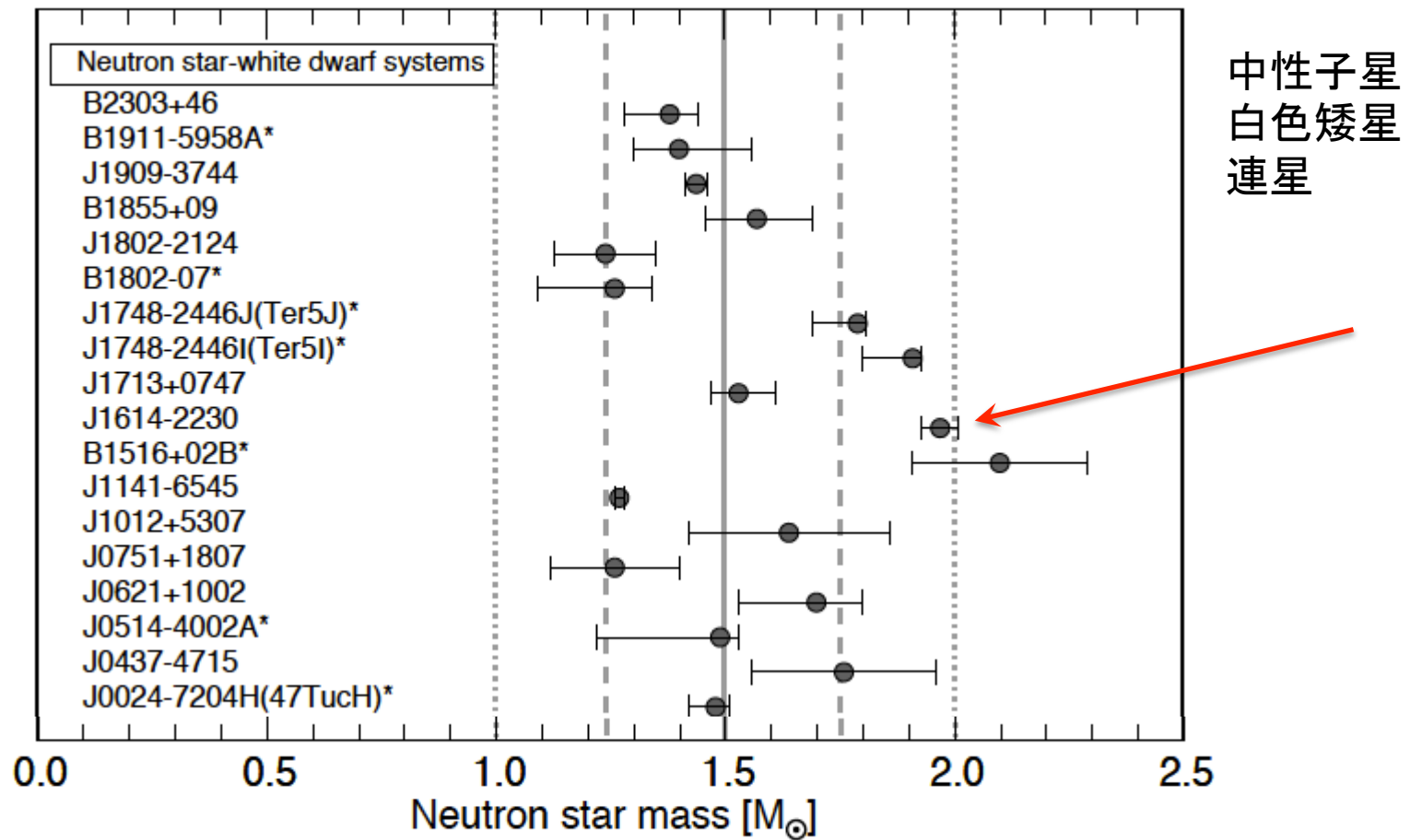
- ・ 中性子星の質量を、核物質の圧力で支える
 - 質量: $1.4M_{\text{sun}}$ 半径: 10 km
 - 中性子理想Fermi気体: $0.7M_{\text{sun}}$ しか支えることができない。
cf. 太陽($1M_{\text{sun}}$)は核融合反応の熱圧力で支えている



連星中性子星の質量
観測データ

もっと重い中性子星もある

- $1.97 \pm 0.04 M_{\text{sun}}$ の中性子星の観測データ

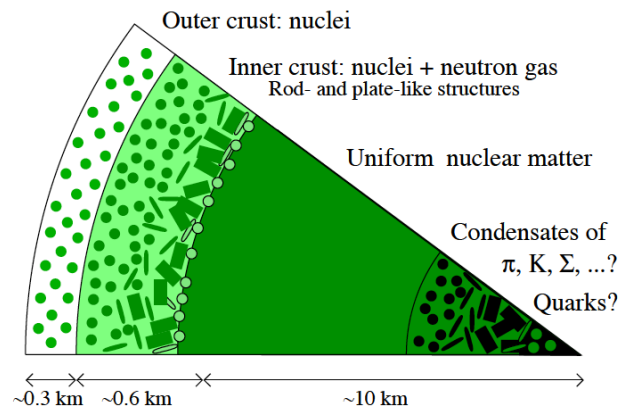


中性子星の構造

・ 作った状態方程式で支えることができるか？

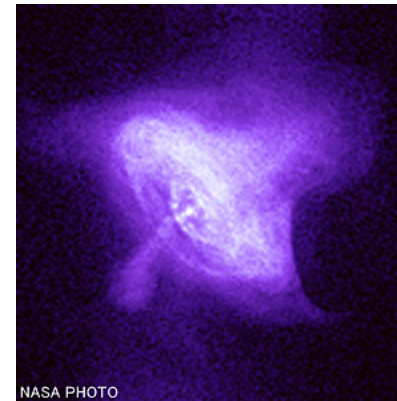
– 中心密度は？
エキゾチック物質

最大の質量は？
ブラックホールへの境界

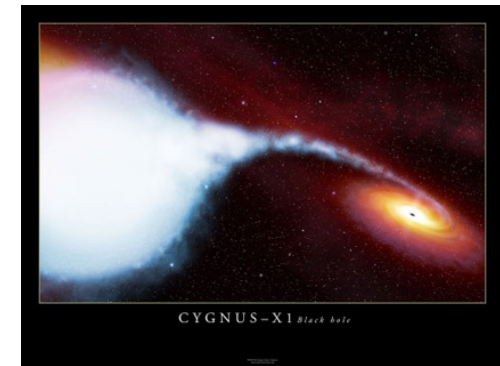


Heiselberg, astro-ph/0201465

パルサー



ブラックホール



宇宙情報センターwebより <http://spaceinfo.jaxa.jp/j>

– 観測と比較して、高密度物質・核力理論に制限
ex. $1.4M_{\text{sun}}$ を支えないとダメ、冷却スピードと比較

中性子星の構造(理論)

- 星内部の圧力と重力のつりあい決まる

- 星内部の密度分布 $\rho(r)$ 圧力分布 $p(r)$
- 半径 r の内側にある質量 $M(r)$ は

$$M(r) = \int_0^r 4\pi r'^2 \rho(r') dr'$$

- 半径 $r \sim r+dr$ の球殻に着目すると
質量 $dM = 4\pi r^2 dr \times \rho$

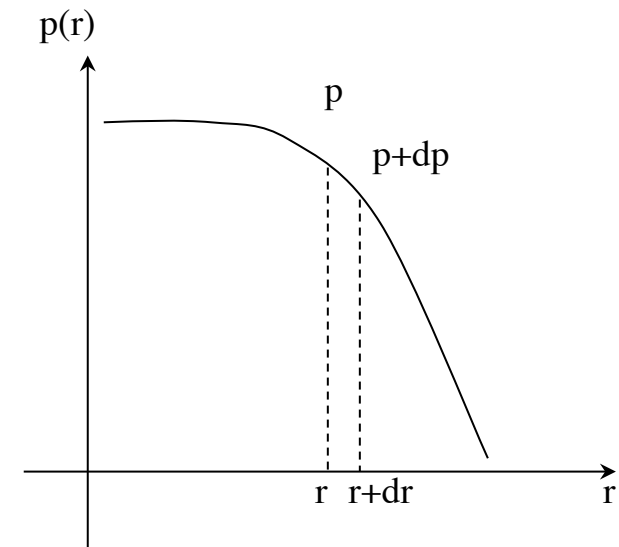
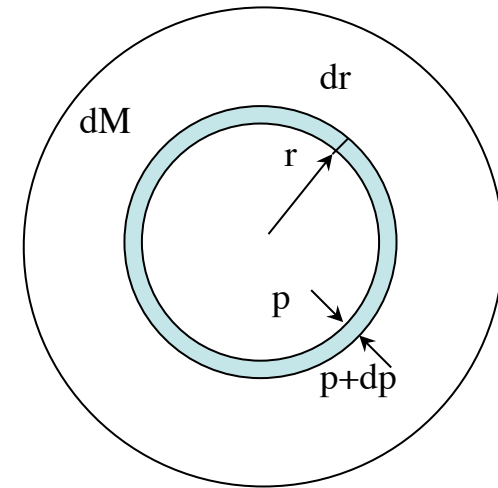
$$\frac{dM}{dr} = 4\pi r^2 \rho \quad (1)$$

- 内外の圧力差は $p - (p+dp) = -dp > 0$
- 圧力により外向きの力 $-dp \times 4\pi r^2$
- 重力により内向きの力

$$\frac{GM}{r^2} 4\pi r^2 \rho dr$$

- つりあいにより

$$\frac{dp}{dr} = -\frac{GM\rho}{r^2} \quad (2)$$



中性子星の構造(理論)

- ・ 状態方程式: Equation of state (EOS)が必要

$$p=f(\rho) \quad (3)$$

- ・ $\rho(r)$, $p(r)$, $M(r)$ を解けばよい

手順:

1. 中心密度を決める: ρ_c (p_c)
 2. $r=0$ で $M(r)=0$
 3. (1)と(2)を内側に向かって積分する
 4. 星の表面で $p=0$ となる
この時、半径: $r=R_{NS}$ 、質量: $M_{NS}=M(R_{NS})$
- 様々な ρ_c について解けば、中性子星の系列ができる

- ・ 構造、質量、半径、最大質量が決まる
 - ・ 状態方程式に大きく依存する(原子核物理が本質的役割)

Tolman-Oppenheimer-Volkoff equation

- ・ 一般相対論: 球対称、静水平衡の式

$$\frac{dM}{dr} = 4\pi r^2 \rho$$

$$\frac{dp}{dr} = -\frac{GM\rho}{r^2} \frac{\left(1 + \frac{p}{\rho c^2}\right) \left(1 + \frac{4\pi p r^3}{Mc^2}\right)}{\left(1 - \frac{2GM}{rc^2}\right)}$$

- ・ 状態方程式

$$\rho = f(p)$$

圧力 vs 密度

核物質・中性子星物質の圧力

- ・ 密度-圧力の関係は？

$$p = -\frac{\partial E}{\partial V} = n_B^2 \frac{\partial E}{\partial n_B}$$

- 熱力学的関係式
- エネルギー vs 密度プロットでの傾き

- ・ 密度を増やした時、圧力がどれくらい増えるか？

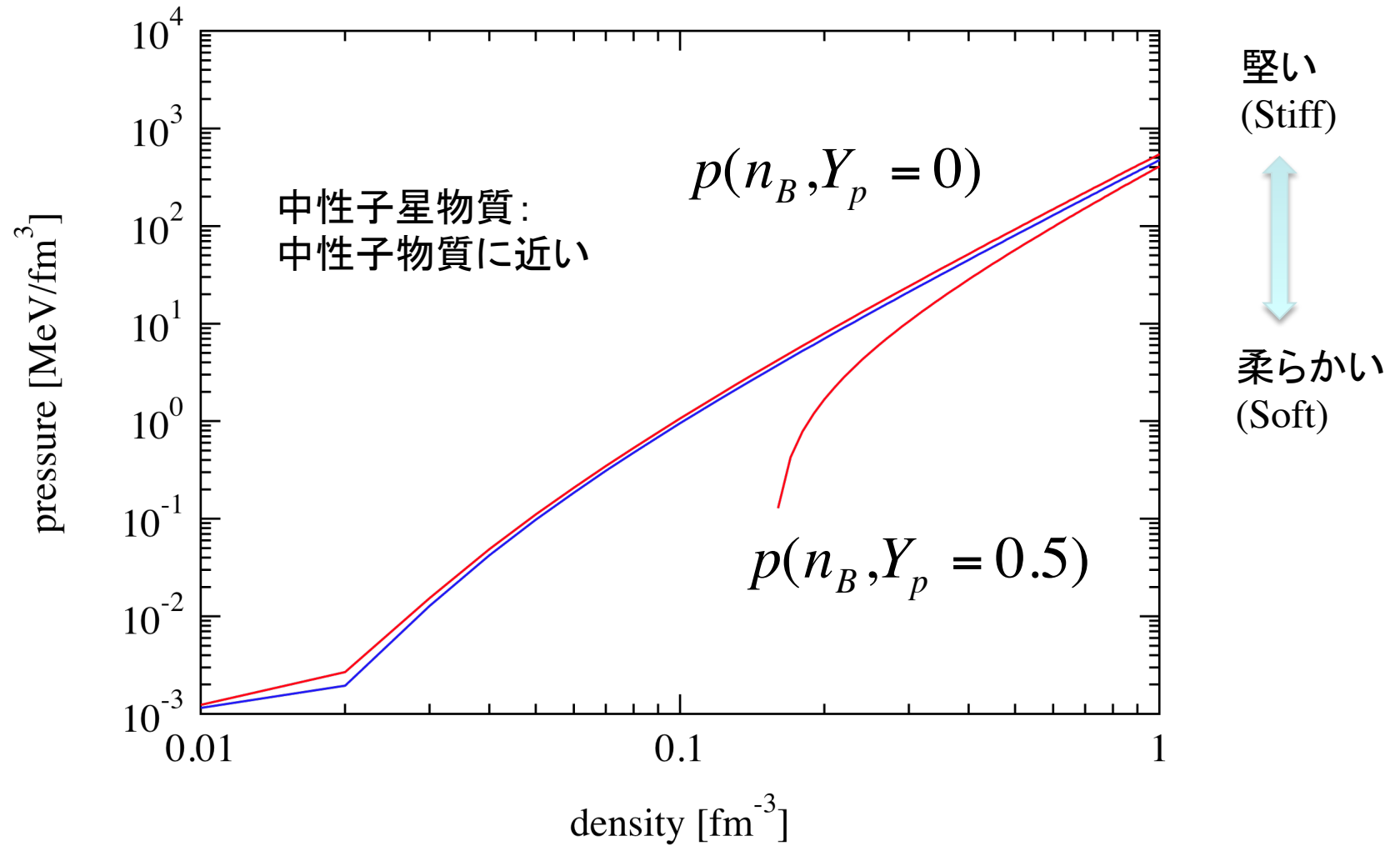
- 星の安定性やダイナミクスに繋がる

- ・ 圧力 vs 密度プロットでの傾きを見るとよい

- 断熱指数 (Adiabatic Index)
- 平均的な傾きはいくらか？

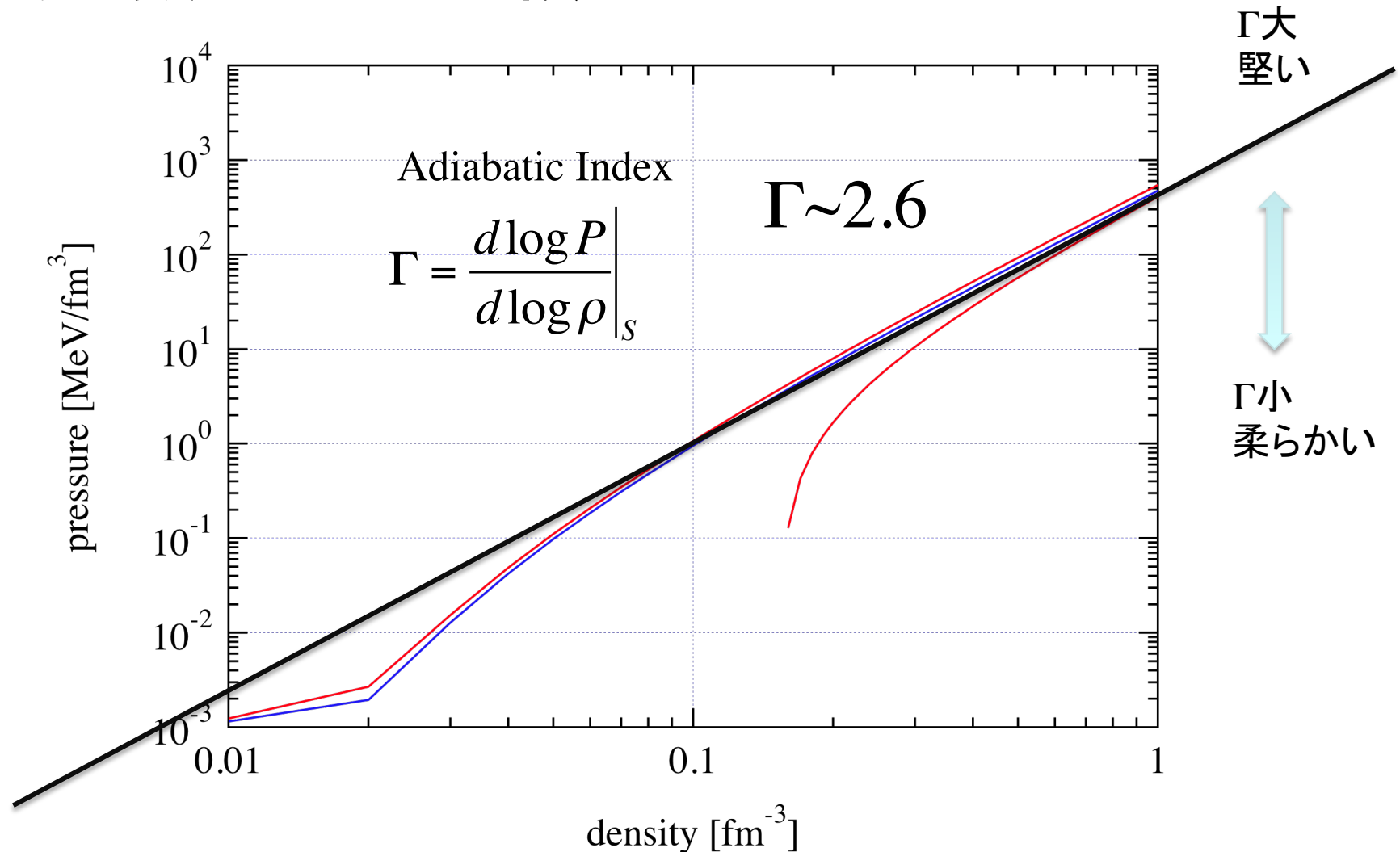
$$\Gamma = \left. \frac{d \log P}{d \log \rho} \right|_S \quad \begin{array}{l} P = K n^\Gamma \\ \rho = m_u n_B \end{array}$$

中性子星物質の圧力



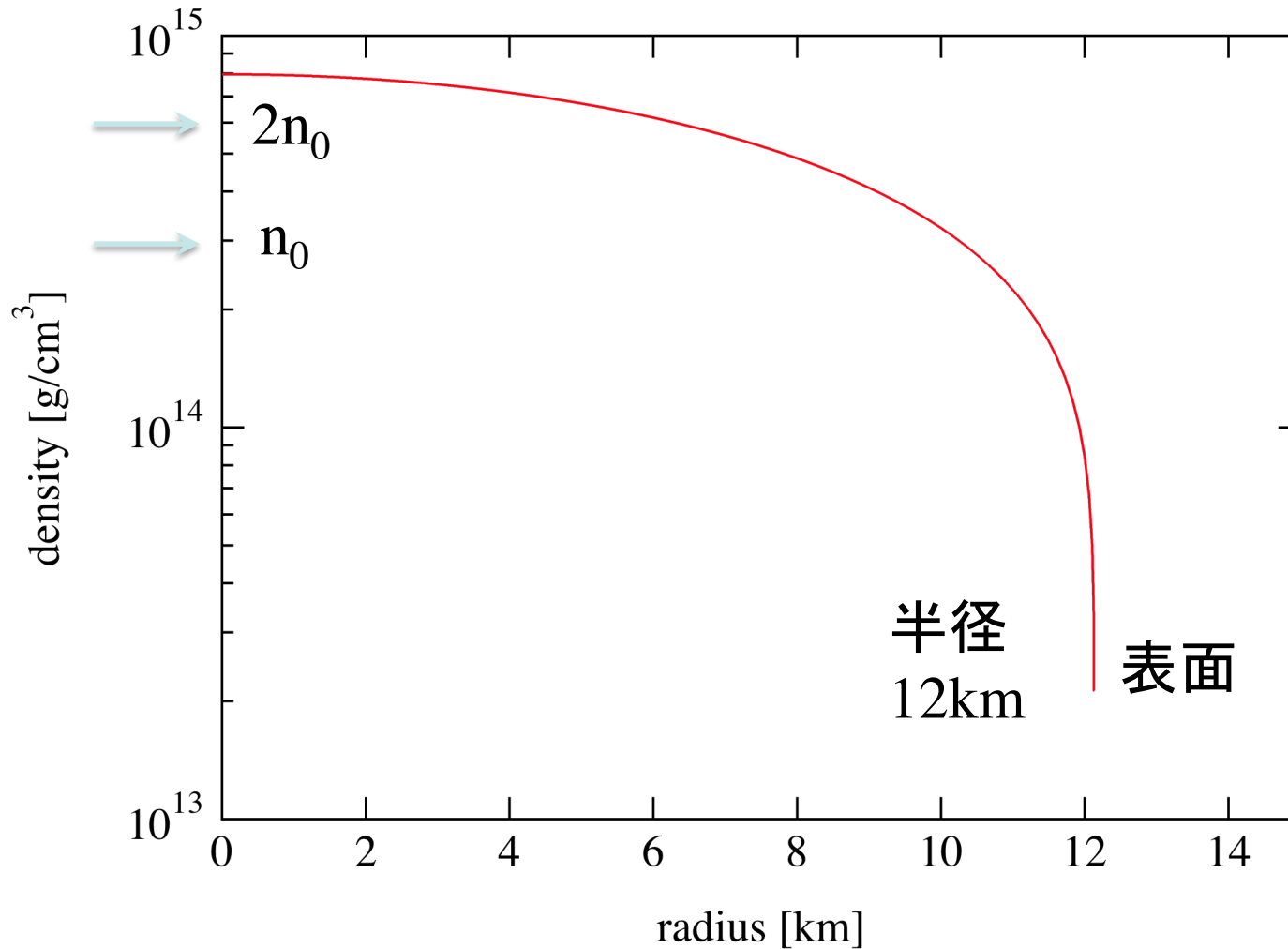
圧力の増え方: 密度依存性

- ・ 両対数グラフでの傾き: $P = C n^\Gamma$



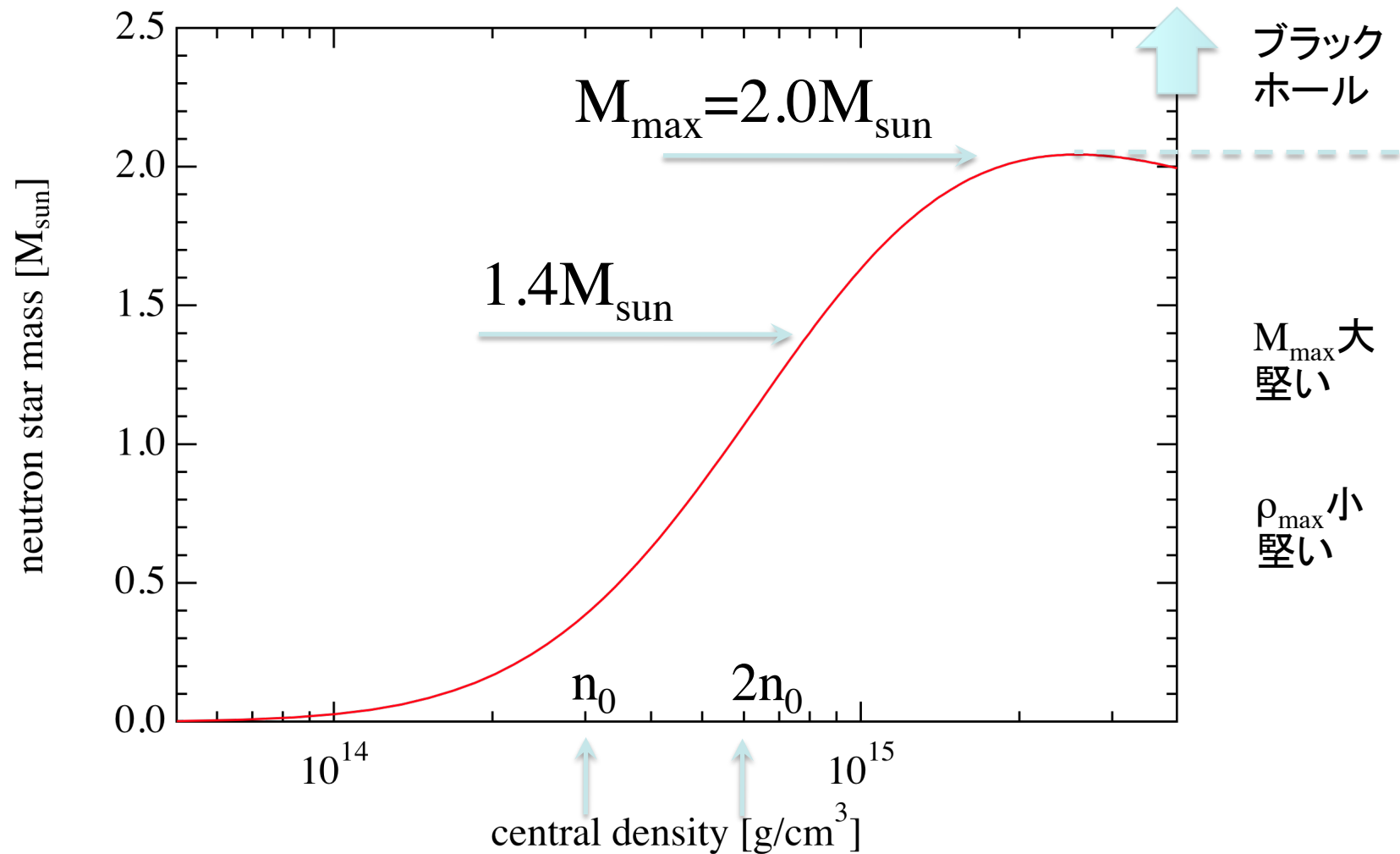
中性子星の内部構造

- ・ 密度分布の様子



中性子星の質量と中心密度

- 安定な中性子星の系列



中性子星の内部

(1) 表面: $\rho \leq 10^6 \text{ g/cm}^3$

- “鉄”の原子核+電子

(2) 外殻 (outer crust): $10^6 \text{ g/cm}^3 \leq \rho \leq 4 \times 10^{11} \text{ g/cm}^3$

- “中性子過剰”原子核+電子
 - 電子のFermi energyが高くなる
 - 原子核内の陽子が中性子に変換される
 - ベータ崩壊は電子の縮退によりblockされる

(3) 内殻 (inner crust): $4 \times 10^{11} \text{ g/cm}^3 \leq \rho \leq 3 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3$

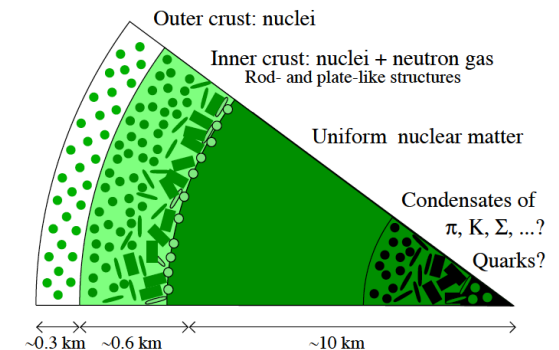
- 原子核+中性子+電子
 - 中性子が原子核からこぼれ出す
 - 巨大な原子核 ($A \sim 1000$)、パスタ相 (Surface vs Coulomb)

(4) コア: $3 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3 \leq \rho$

- 陽子+中性子+電子
 - ほとんどが中性子

(5) さらに高密度では

- Other hadrons (hyperons,...)の出現
- Pion-condensation, quark matter,...の可能性



Nuclei inside neutron stars

From neutron-rich nuclei to neutron-dripped huge nuclei

$\rho_{\max}$ [g cm ⁻³]	Element	Z	N	R_{cell} [fm]
8.02×10^6	⁵⁶ Fe	26	30	1404.05
2.71×10^8	⁶² Ni	28	34	449.48
1.33×10^9	⁶⁴ Ni	28	36	266.97
1.50×10^9	⁶⁶ Ni	28	38	259.26
3.09×10^9	⁸⁶ Kr	36	50	222.66
1.06×10^{10}	⁸⁴ Se	34	50	146.56
2.79×10^{10}	⁸² Ge	32	50	105.23
6.07×10^{10}	⁸⁰ Zn	30	50	80.58
8.46×10^{10}	⁸² Zn	30	52	72.77
9.67×10^{10}	¹²⁸ Pd	46	82	80.77
1.47×10^{11}	¹²⁶ Ru	44	82	69.81
2.11×10^{11}	¹²⁴ Mo	42	82	61.71
2.89×10^{11}	¹²² Zr	40	82	55.22
3.97×10^{11}	¹²⁰ Sr	38	82	49.37
4.27×10^{11}	¹¹⁸ Kr	36	82	47.92

ρ [g cm ⁻³]	Element	Z	N	R_{cell} [fm]
4.67×10^{11}	¹⁸⁰ Zr	40	140	53.60
6.69×10^{11}	²⁰⁰ Zr	40	160	49.24
1.00×10^{12}	²⁵⁰ Zr	40	210	46.33
1.47×10^{12}	³²⁰ Zr	40	280	44.30
2.66×10^{12}	⁵⁰⁰ Zr	40	460	42.16
6.24×10^{12}	⁹⁵⁰ Sn	50	900	39.32
9.65×10^{12}	¹¹⁰⁰ Sn	50	1050	35.70
1.49×10^{13}	¹³⁵⁰ Sn	50	1300	33.07
3.41×10^{13}	¹⁸⁰⁰ Sn	50	1750	27.61
7.94×10^{13}	¹⁵⁰⁰ Zr	40	1460	19.61
1.32×10^{14}	⁹⁸² Ge	32	950	14.38

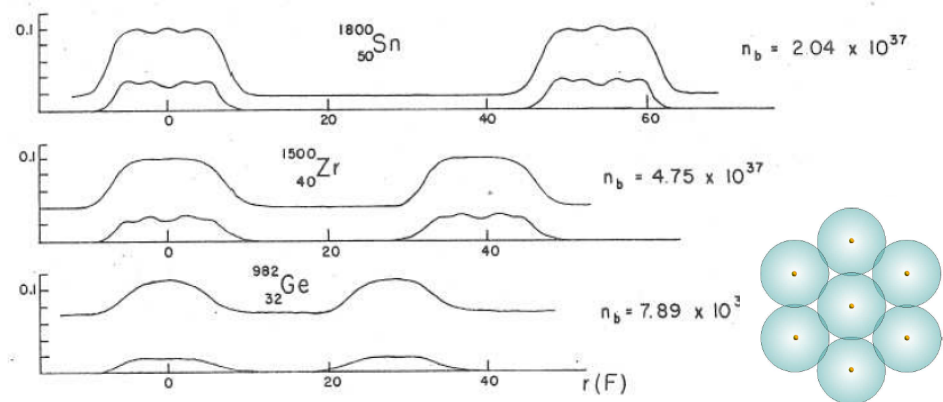
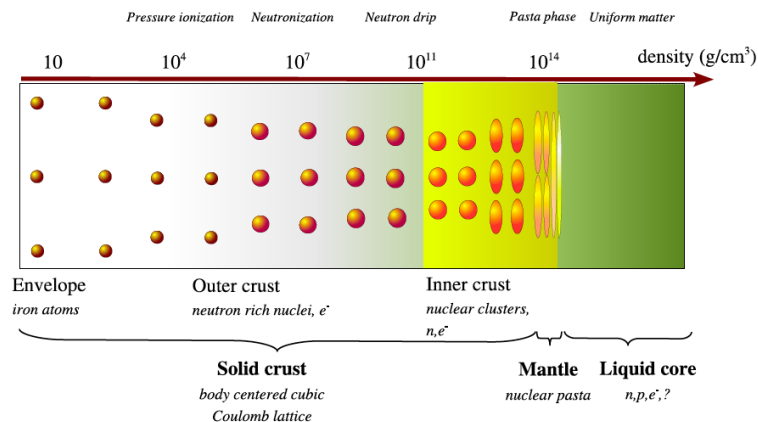


Figure 12: Nucleon number densities (in fm⁻³) along the axis joining two adjacent Wigner-Seitz cells of the ground state of the inner crust, for a few baryon densities n_b (in cm⁻³), as calculated by Negele & Vautherin [303].

重力崩壊型超新星爆発

$\sim 20M_{\text{sun}}$

鉄のコア

電子捕獲
反応

重力崩壊

$$\rho_c \sim 10^{10} \text{ g/cm}^3$$

$$T_c \sim 1 \text{ MeV}$$

$$Y_{\text{ec}} \sim 0.42$$

ν -閉込め

$$\rho_c \sim 10^{12} \text{ g/cm}^3$$

$$T_c \sim 2 \text{ MeV}$$

$$Y_{\text{ec}} \sim 0.34$$

ν 反応

1000 km

コアバウンス

$$\rho_c \sim 3 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3$$

$$T_c \sim 5 \text{ MeV}$$

$$Y_{\text{ec}} \sim 0.31$$

衝撃波

超新星 ν

爆発

$$\rho_c \sim 4 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3$$

$$T_c \sim 10 \text{ MeV}$$

$$Y_{\text{ec}} \sim 0.31$$

中性
子星

元素合成

$\sim 10 \text{ km}$

中性子星

$$T \sim 0 \text{ MeV}, Y_e < 0.1$$

極限物質の性質を決めるには？

超新星：状態方程式の基本

超新星内部の物質の記述

- ・ 密度(n_B), 電子の割合(Y_e), 温度(T)の3つを与える
 - エネルギー、圧力、組成、化学ポテンシャルなどが決まる

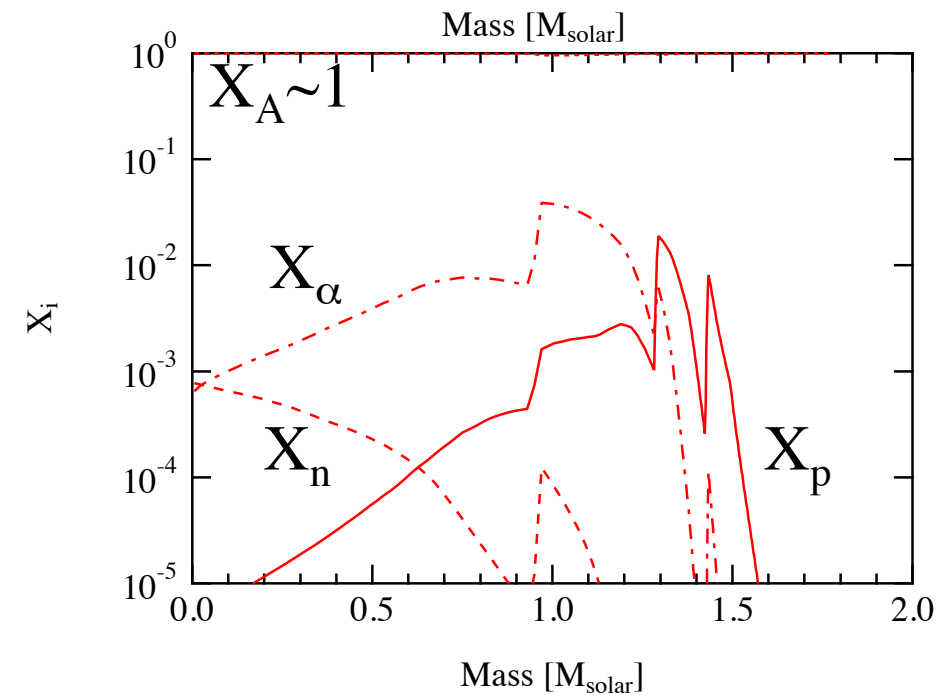
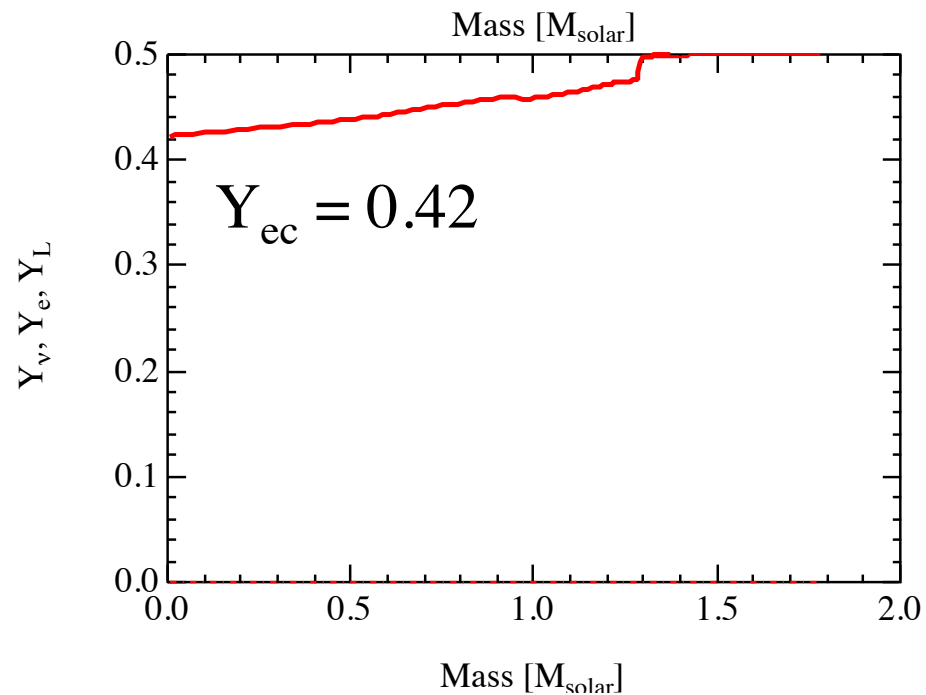
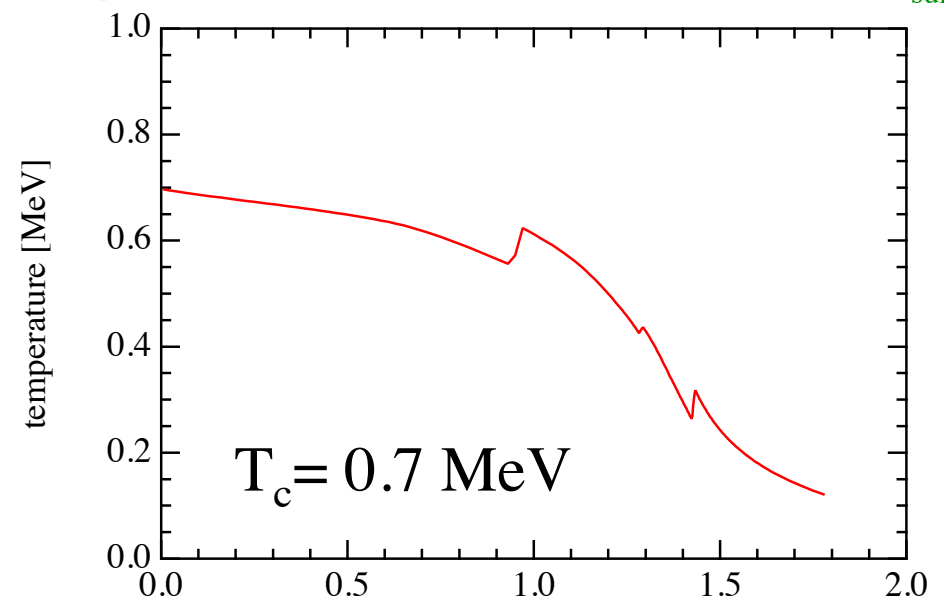
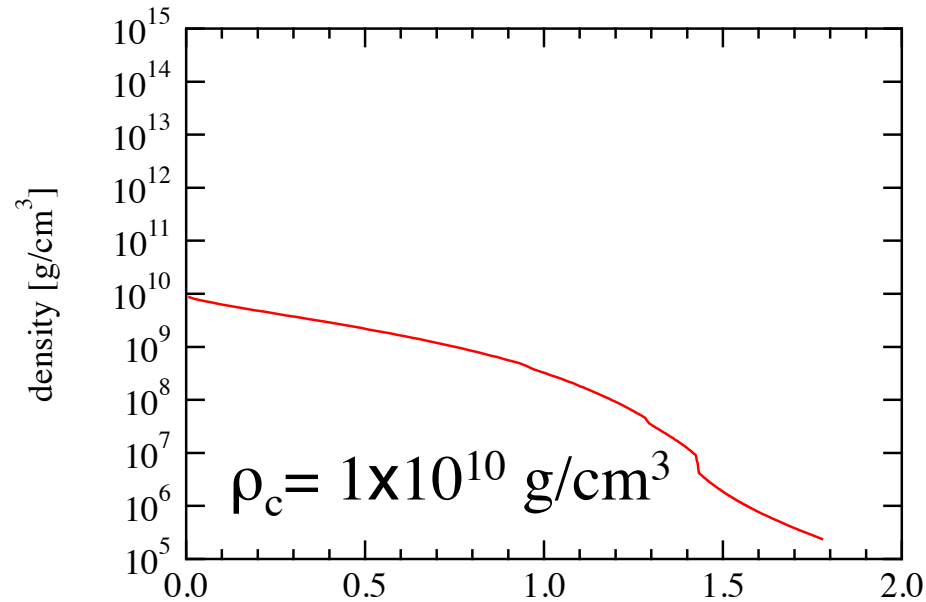
- ・ 有限温度, 核子, 原子核, 電子/陽電子, 光子 電子の割合
 - 電氣的に中性, 熱平衡, 核統計平衡
- $$Y_e = \frac{n_e}{n_B}$$

- ・ ニュートリノを含めるか? 別に扱う
 - 必ずしも物質と熱平衡・化学平衡になっていない
 - ニュートリノ閉込め内部: ニュートリノを含むベータ平衡(圧力など)
 - 原始中性子星では良い近似となっている

- ・ ダイナミクスと連動して調べる必要
 - 密度・温度: 流体力学、電子の割合: 電子捕獲反応
 - ニュートリノ分布: ニュートリノ輻射輸送

Fe core of Pre-supernova star

WW95: $15M_{\text{sun}}$



超新星内部での熱統計平衡

- 組成: $^{56}\text{Fe}, \dots, ^4\text{He}, p, n, e^-, e^+, \gamma$
 - 電磁相互作用、強い相互作用で十分に速く反応 $T > 0.5 \text{ MeV}$
 - Nuclear Statistical Equilibrium
 - $(Z, A) + p \Leftrightarrow (Z+1, A+1) + \gamma \quad (p, \gamma)$
 - $(Z, A) + n \Leftrightarrow (Z, A+1) + \gamma \quad (n, \gamma) \text{ など}$
 $(\alpha, \gamma), (\alpha, n), (\alpha, p), (p, n) \text{ etc}\cdots$ が平衡状態にある

原子核 A, Z のchemical potential $\mu(Z, A) \quad \mu(Z, A) = Z\mu_p + (A - Z)\mu_n$

Saha's eq.
$$n(Z, A) = \frac{g(Z, A) A^{3/2}}{2^A \theta^{A-1}} n_p^Z n_n^{A-Z} \exp\left(\frac{Q(Z, A)}{T}\right)$$

Q-value $Q(Z, A) = Zm_p + (A - Z)m_n - M(Z, A) \quad \text{原子核の質量に依存}$

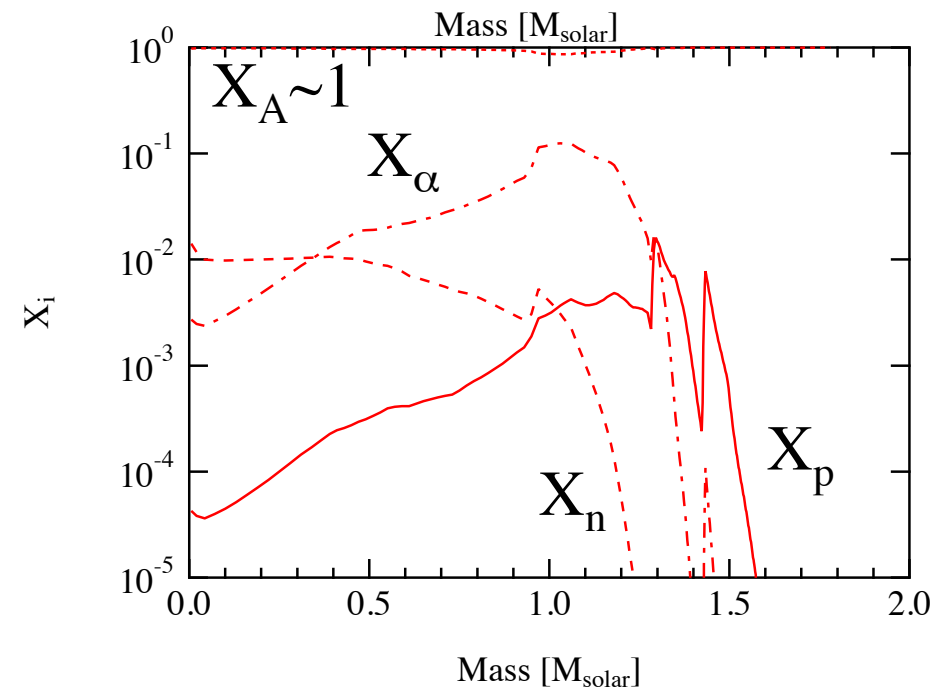
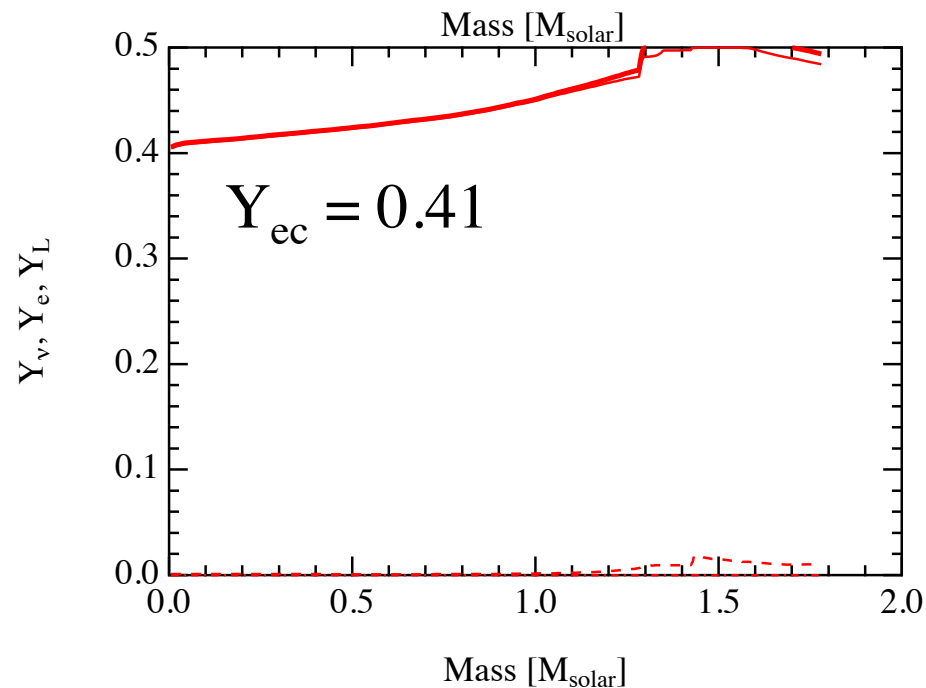
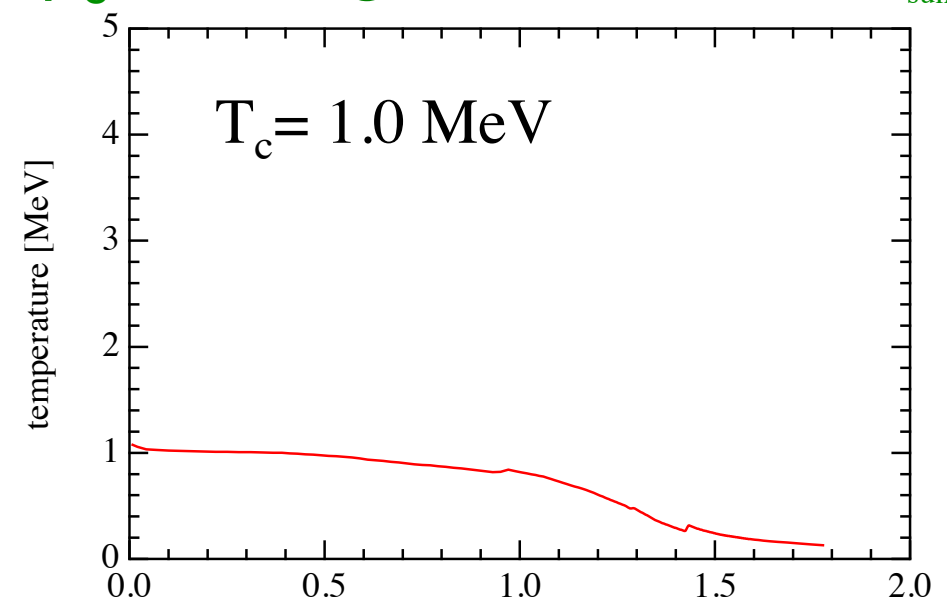
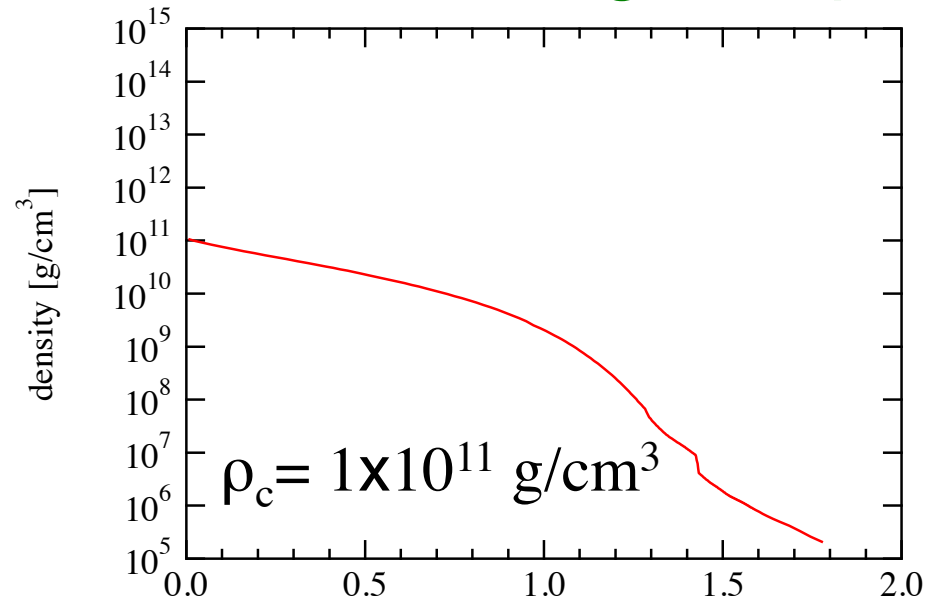
- ρ, T, Y_e を指定すると組成が決まる

Non-relativistic Maxwell-Boltzmann gas

$$n = g \left(\frac{mkT}{2\pi\hbar^2} \right)^{3/2} \exp\left(\frac{\mu - mc^2}{kT} \right) \quad \varepsilon = nmc^2 + \frac{3}{2}nkT \quad P = nT$$

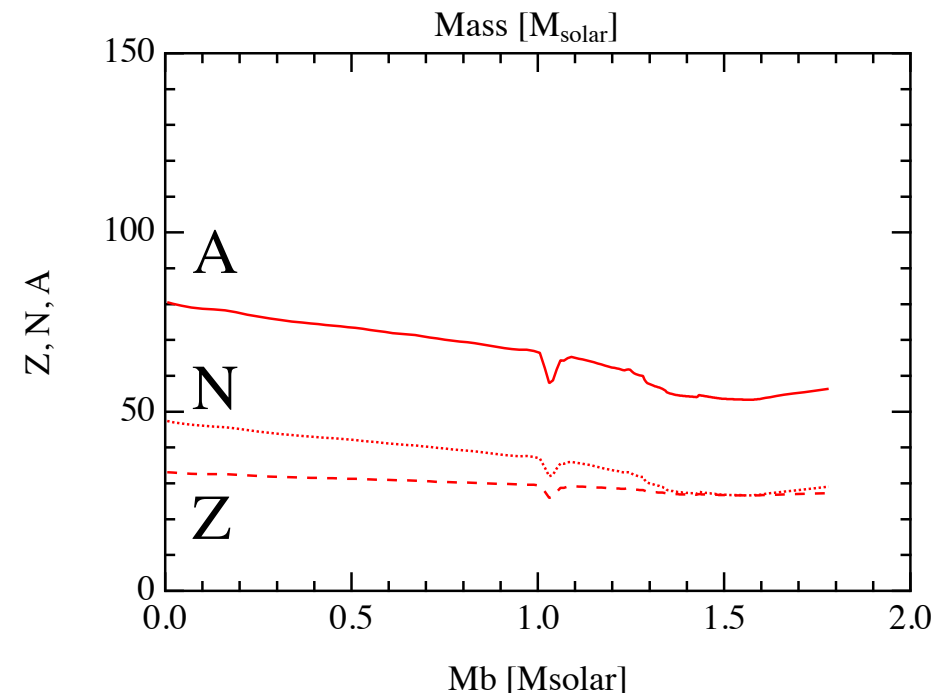
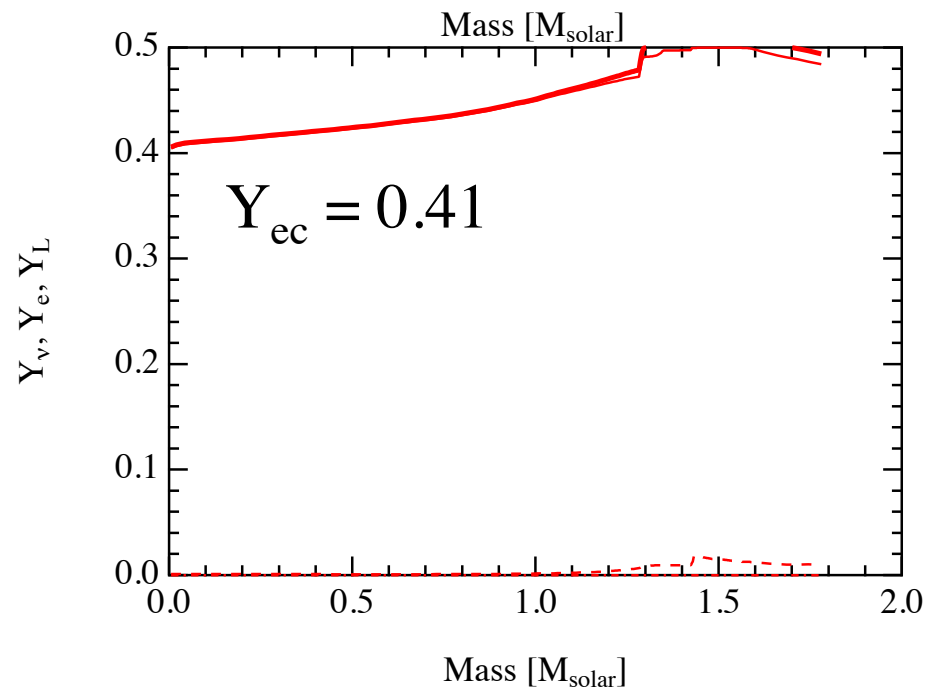
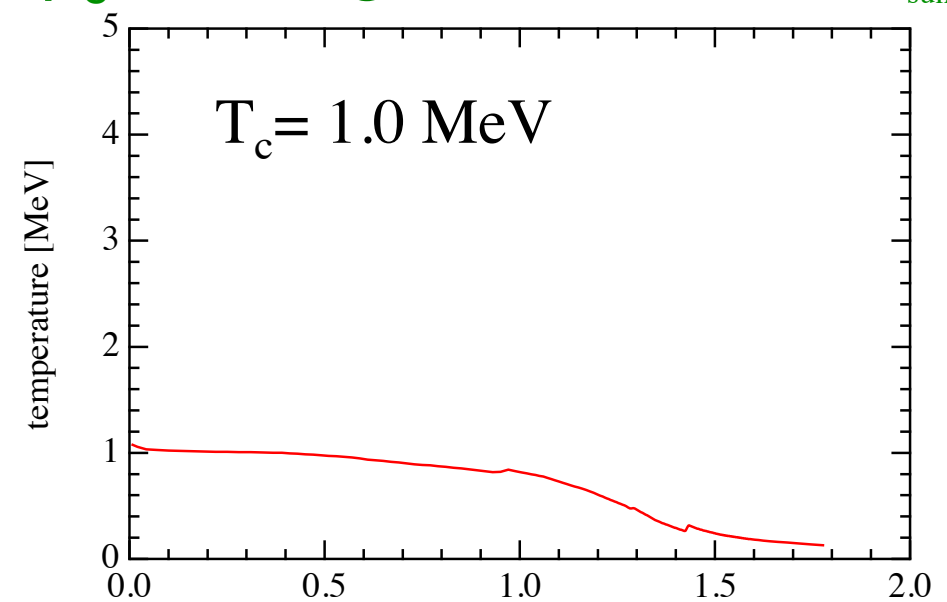
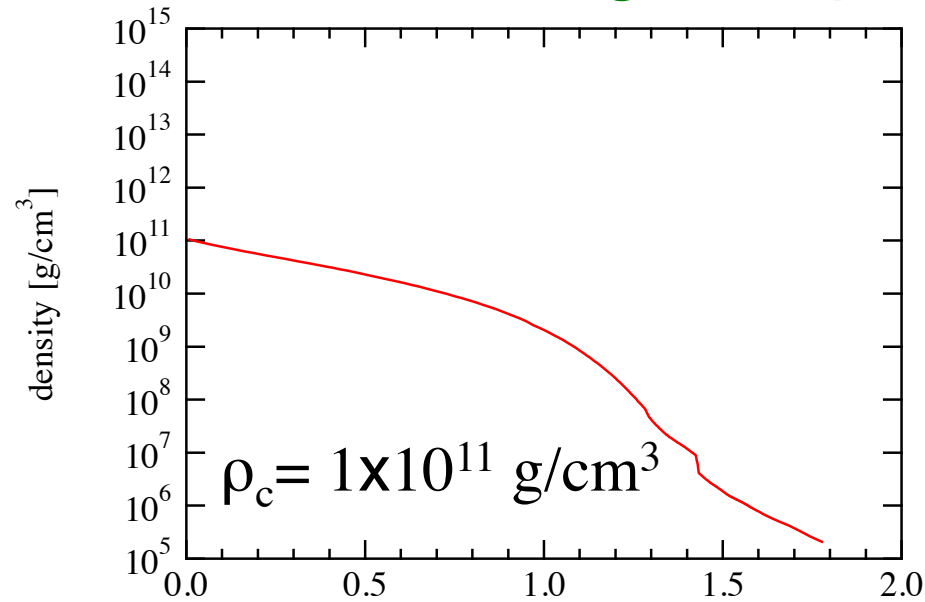
During collapse: $\rho_c = 10^{11} \text{ g/cm}^3$

WW95: $15 M_{\text{sun}}$

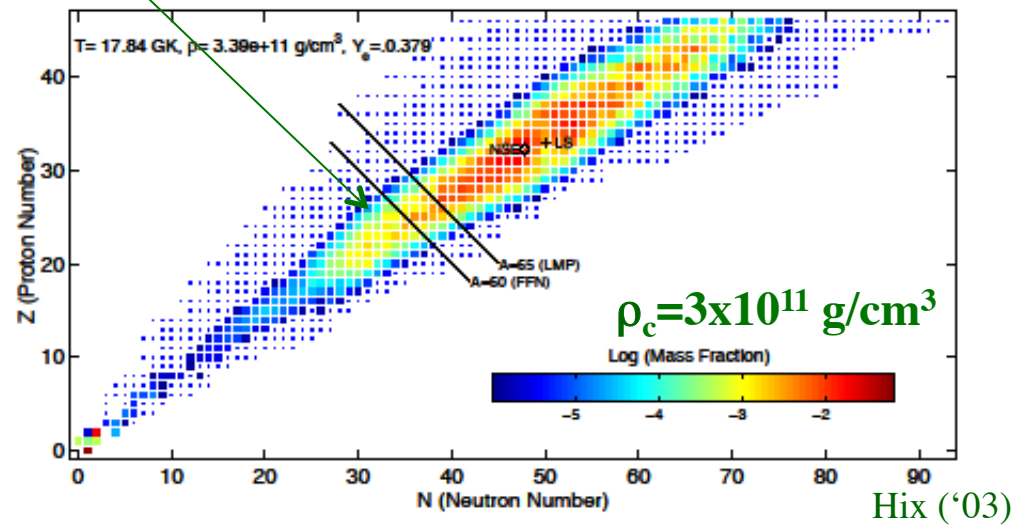
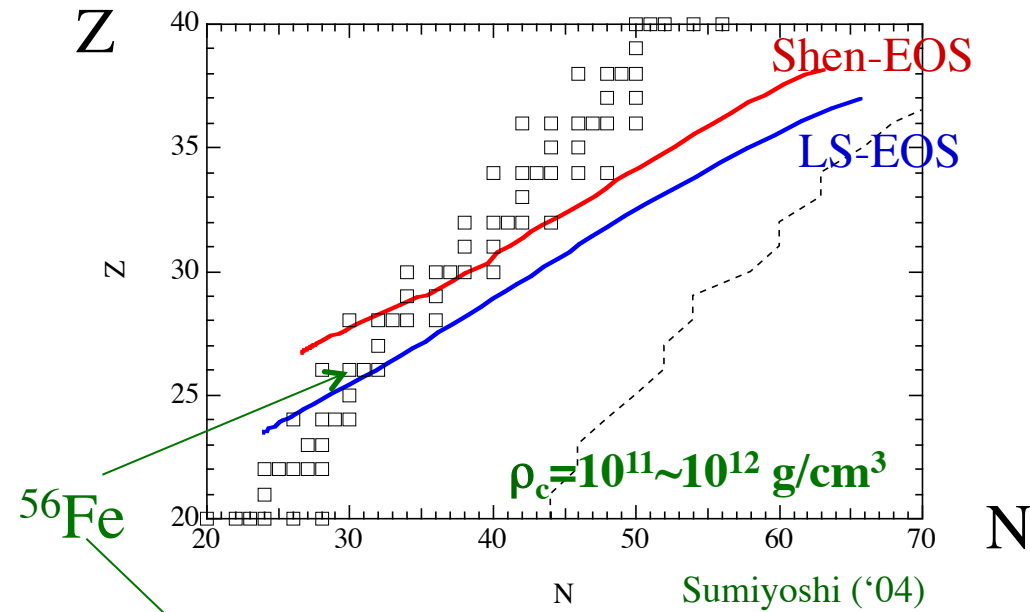


During collapse: $\rho_c = 10^{11} \text{ g/cm}^3$

WW95: $15 M_{\text{sun}}$



Nuclei appear in supernova core during collapse

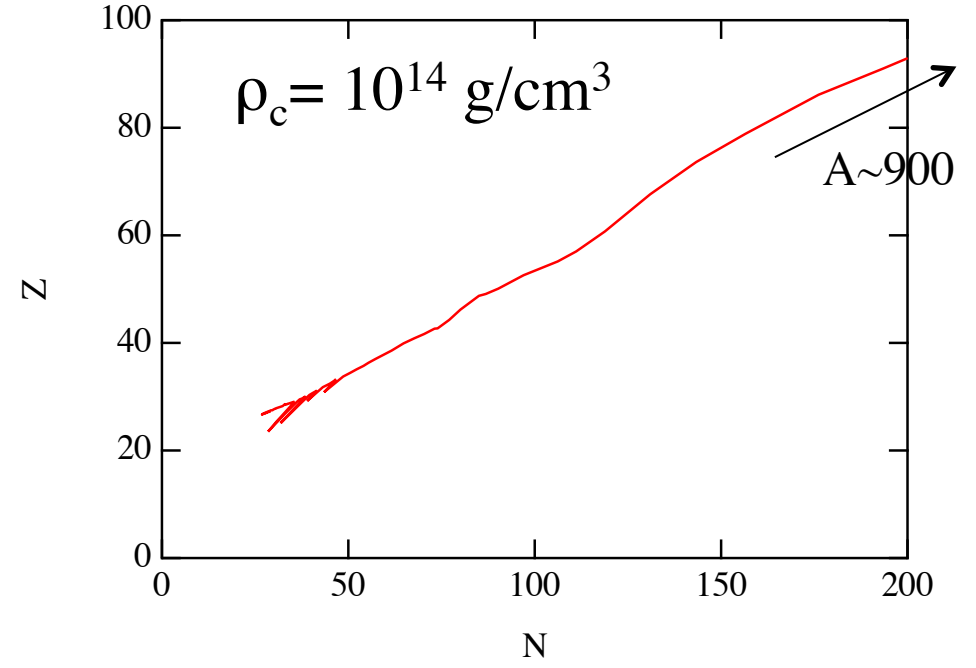
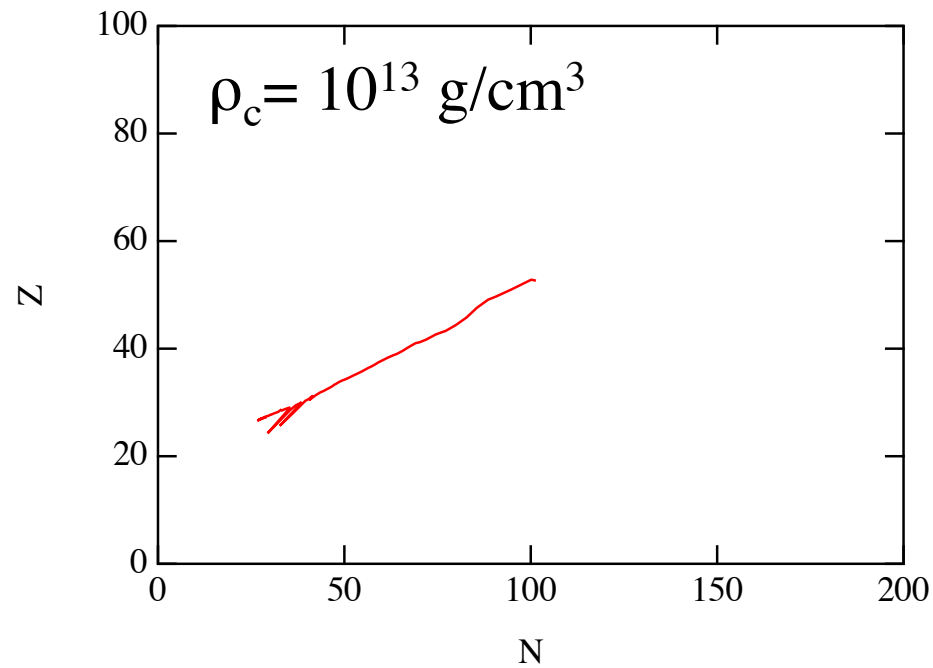
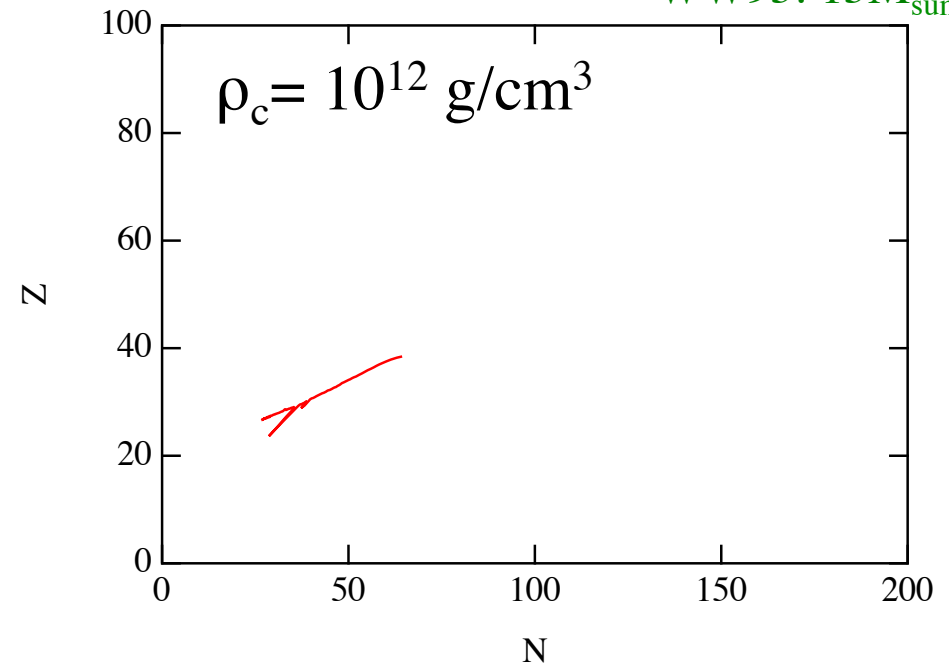
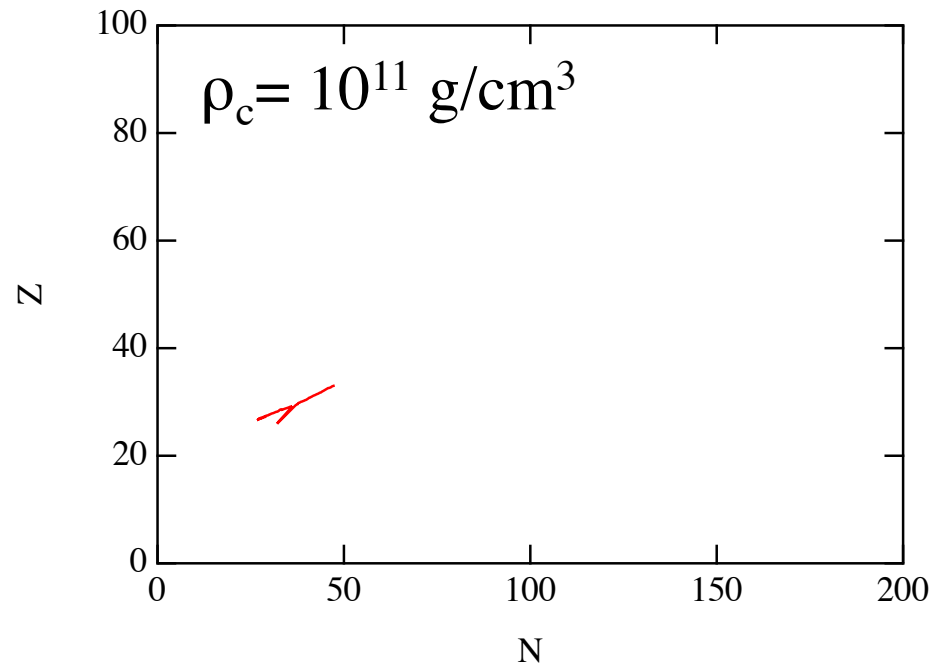


超新星内部での弱い相互作用

- 組成:陽子・中性子の割合を決める $\rho \sim 10^{10} - 10^{11} \text{ g/cm}^3$
 - $e^- + (Z, A) \rightarrow \nu_e + (Z-1, A)$
 - $e^- + p \rightarrow \nu_e + n$
 - ν_e を生成、中性子化: $Y_e \downarrow$
 - 崩壊初期は ν_e は自由に逃げる ($\lambda_\nu > R_{\text{core}}$)
 - 密度が高くなると、 ν_e は閉込められる($\lambda_\nu < R_{\text{core}}$)
- ρ, T, Y_e における反応率が必要
 - 原子核の構造・反応 電子捕獲反応
 - 物質組成に依存(原子核種、自由陽子の割合)

Nuclei in supernova core

WW95: 15M_{sun}

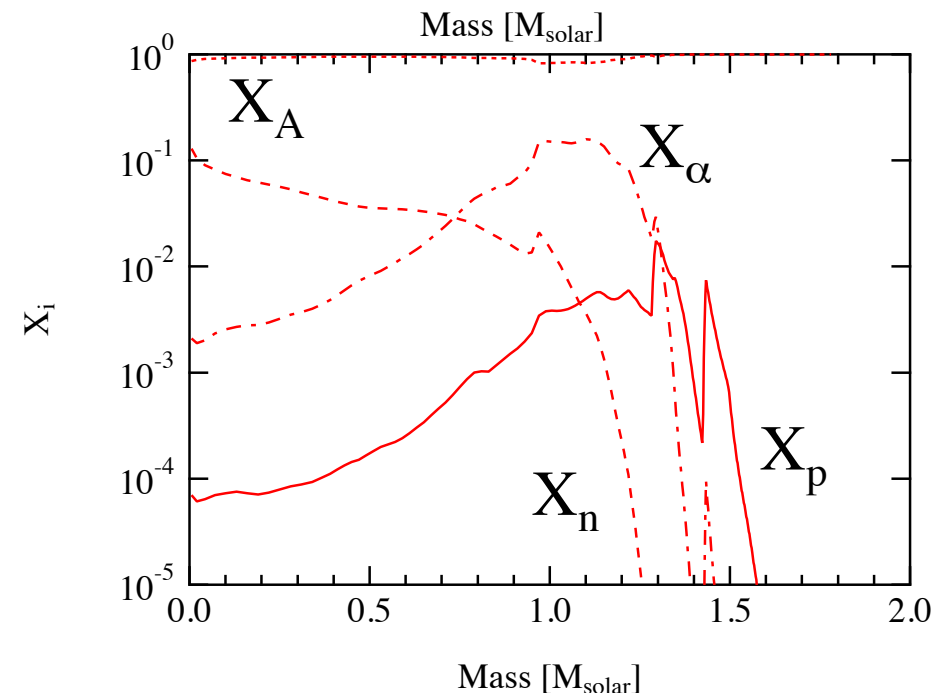
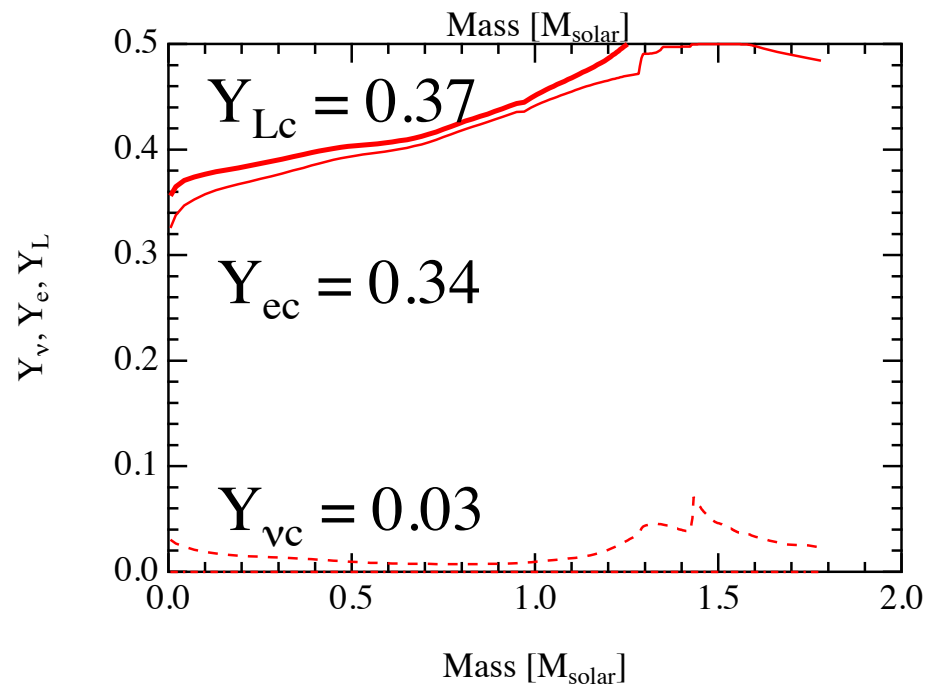
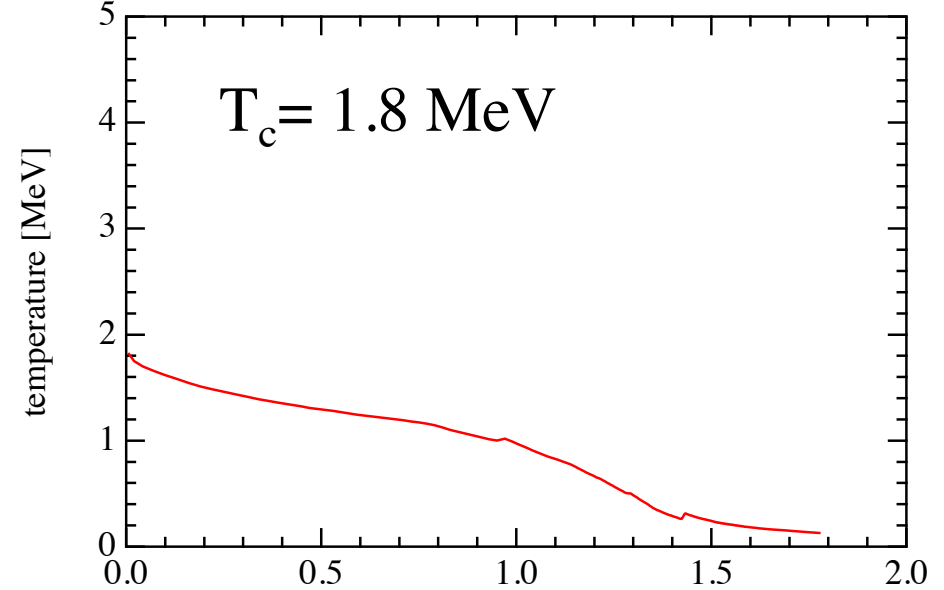
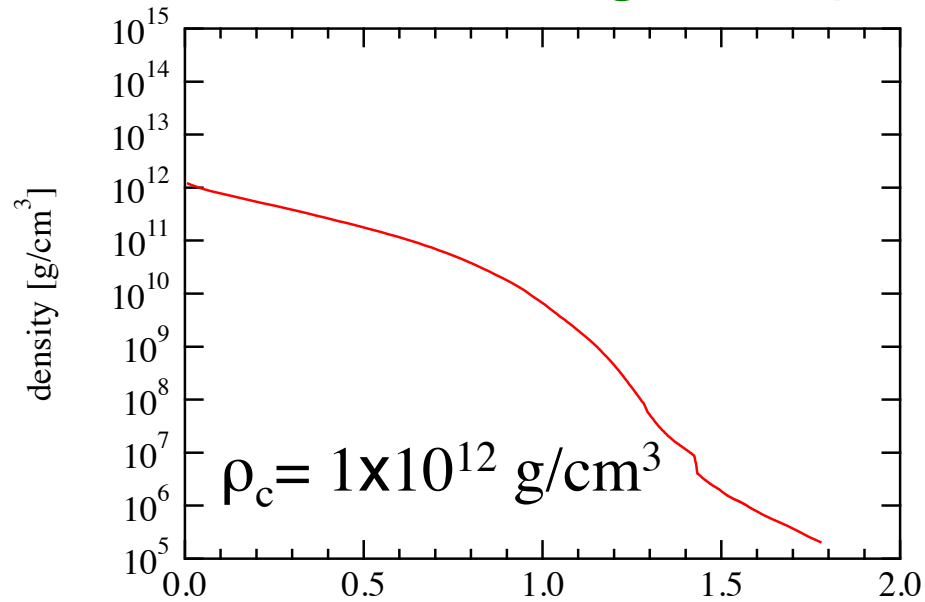


超新星内部での弱い相互作用

- 陽子・中性子の間の化学平衡へ $\rho \sim 10^{12} - 10^{14} \text{ g/cm}^3$
 - ν -trappingにより ν の密度が高くなり縮退: $\mu_\nu \uparrow$
 - Pauli blockingのため電子捕獲反応が止まる
 - 逆反応もおこる
 - $e^- + p \Leftrightarrow \nu_e + n \quad e^- + (Z, A) \Leftrightarrow \nu_e + (Z-1, A)$
つまり $\mu_e + \mu_p = \mu_\nu + \mu_n$ となる
- ν を含めた β 平衡となる ($\rho \geq 10^{12} \text{ g/cm}^3$)
 - Lepton fraction $Y_L = Y_e + Y_\nu \quad Y_\nu = (n_{\bar{\nu}} - n_\nu)/n_B$
 - Lepton数保存: $Y_L = \text{一定}$
- 中心部分はLepton fractionで特徴づけられる
 - バウンスコアのサイズ、原始中性子星の内部
 - ρ, T, Y_L を決めると他の量が決まる

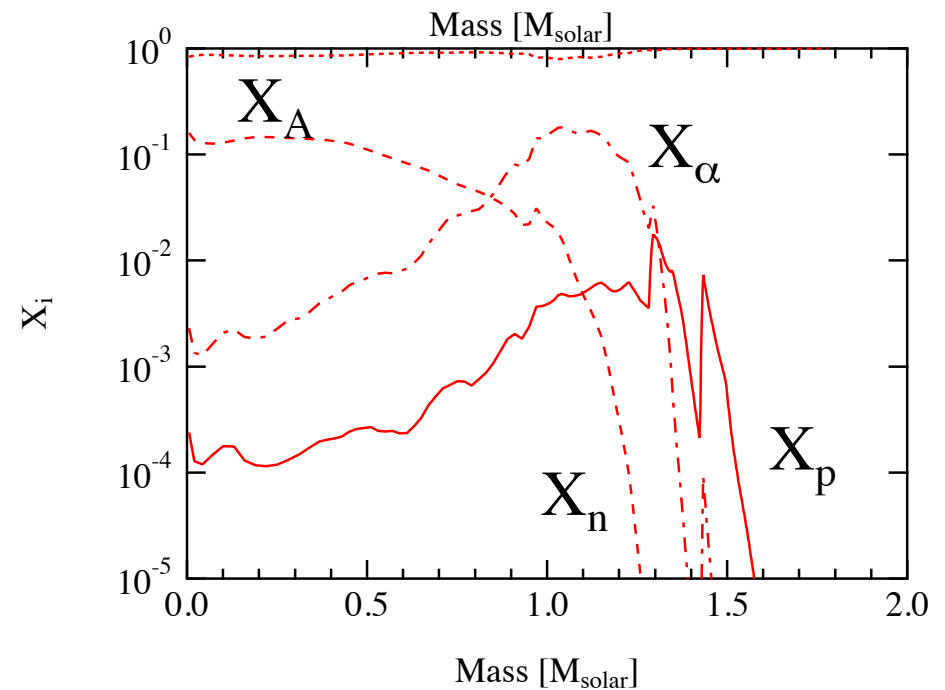
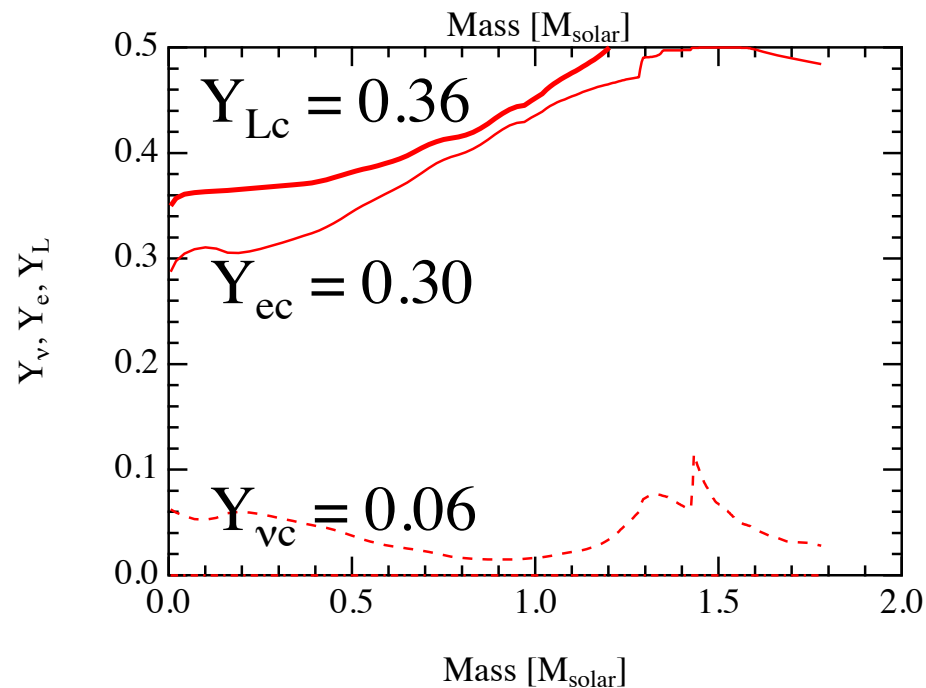
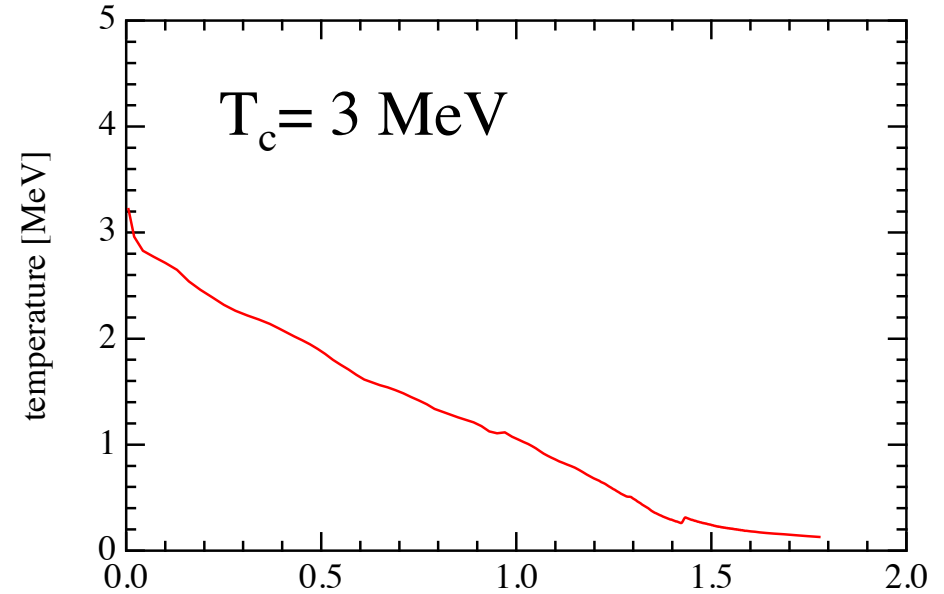
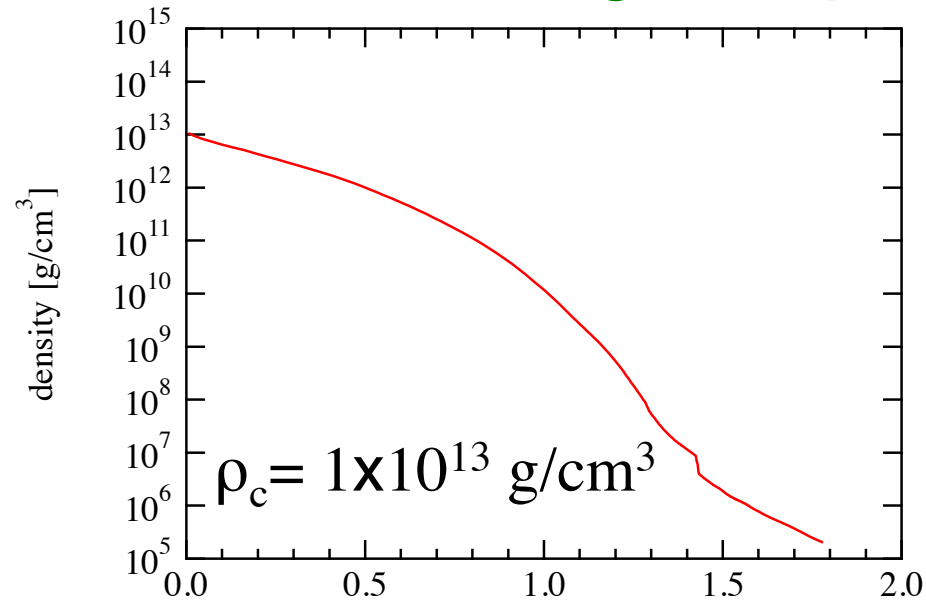
During collapse: $\rho_c = 10^{12} \text{ g/cm}^3$

WW95: $15M_{\text{sun}}$



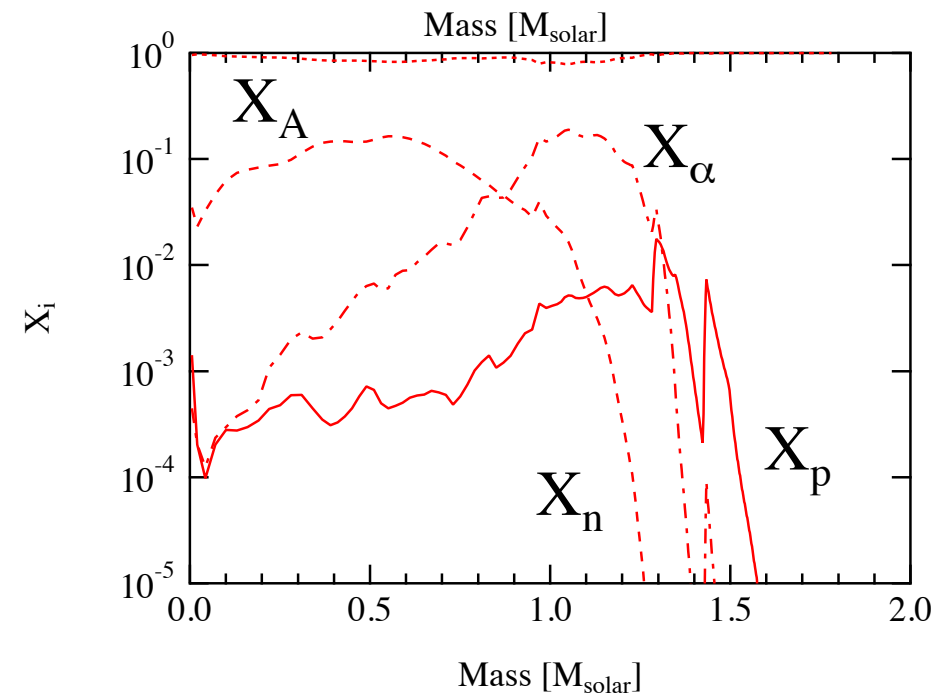
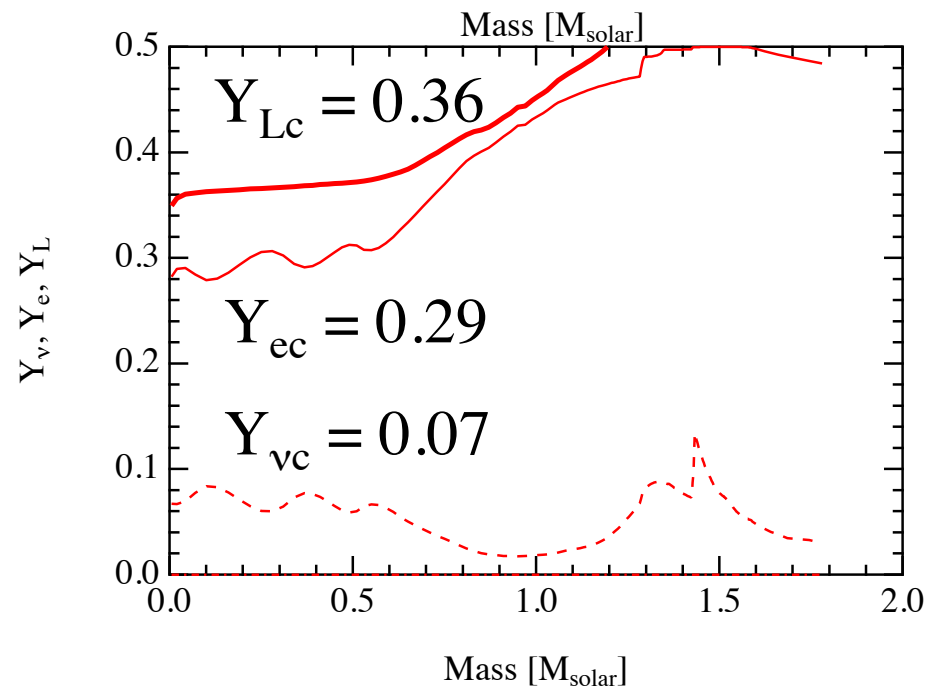
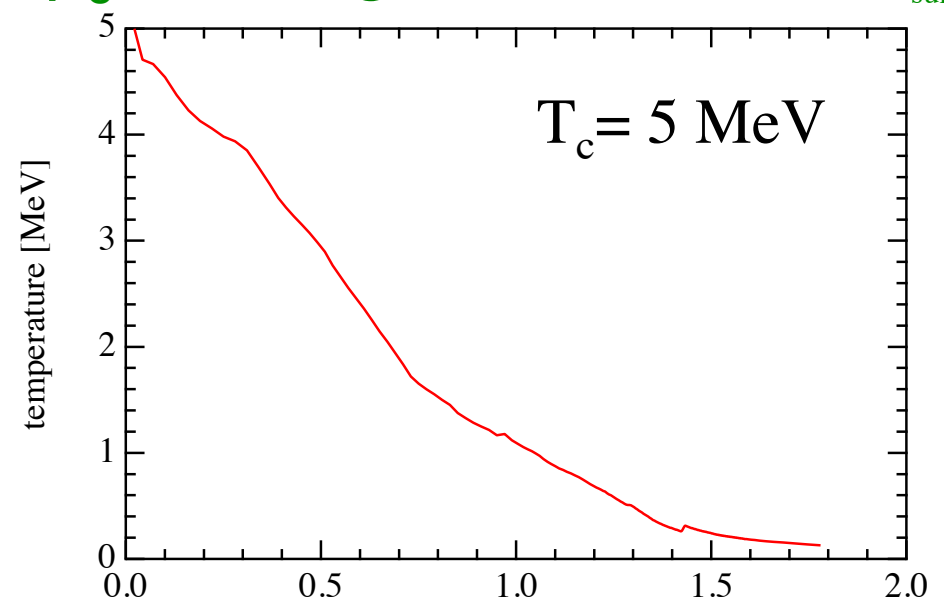
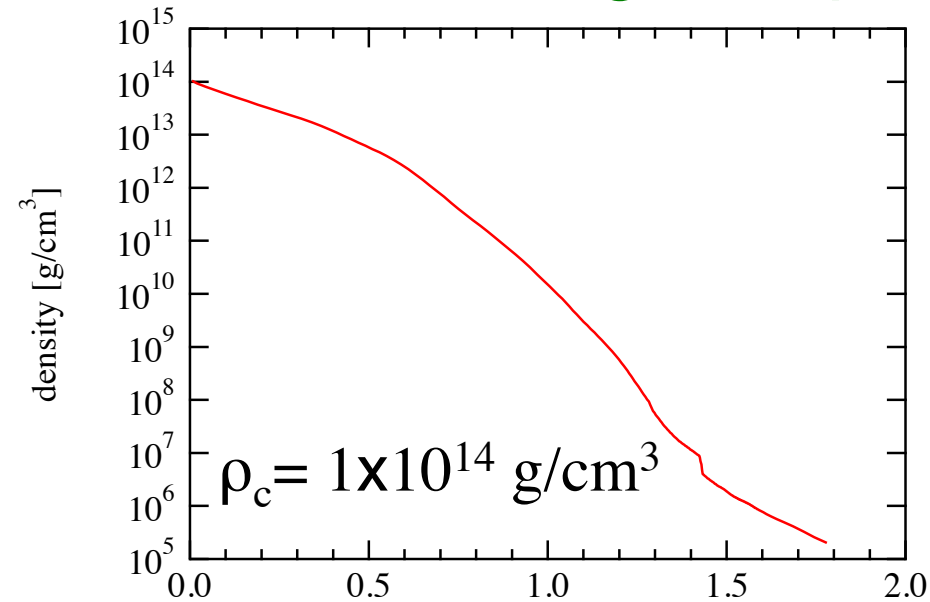
During collapse: $\rho_c = 10^{13} \text{ g/cm}^3$

WW95: $15M_{\text{sun}}$



During collapse: $\rho_c = 10^{14} \text{ g/cm}^3$

WW95: $15M_{\text{sun}}$

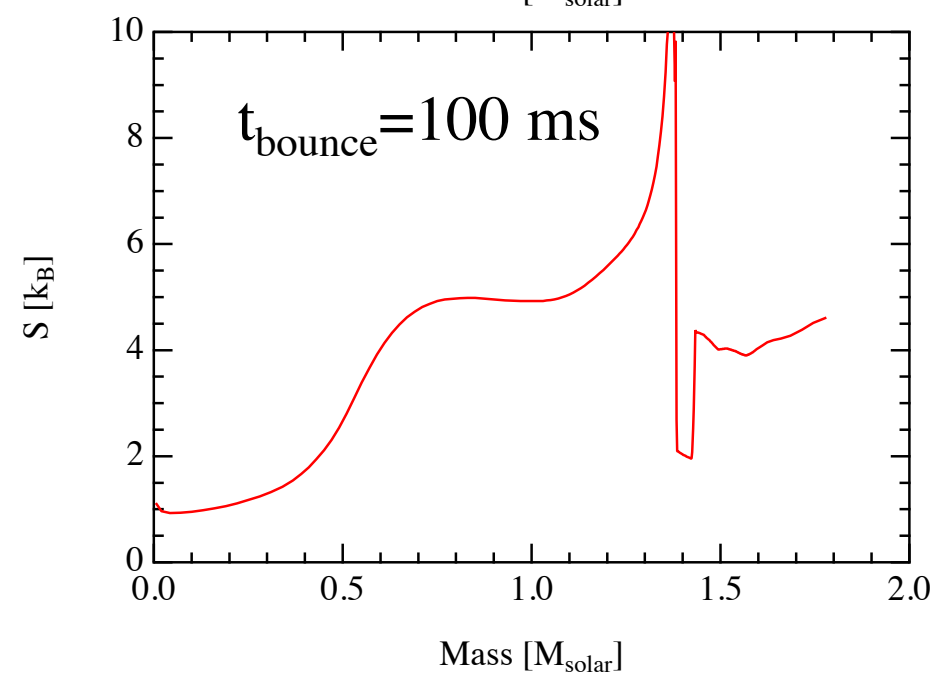
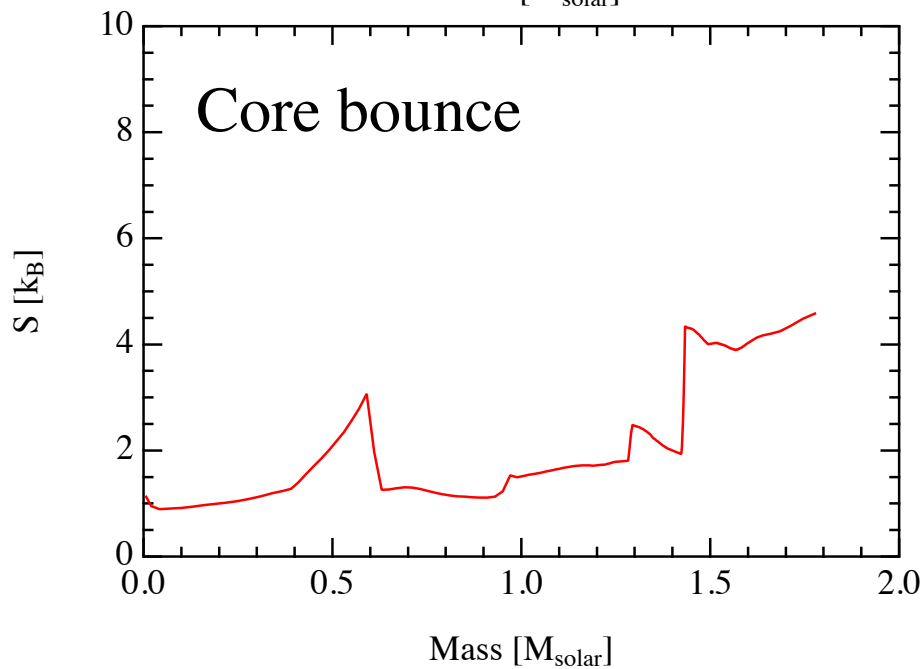
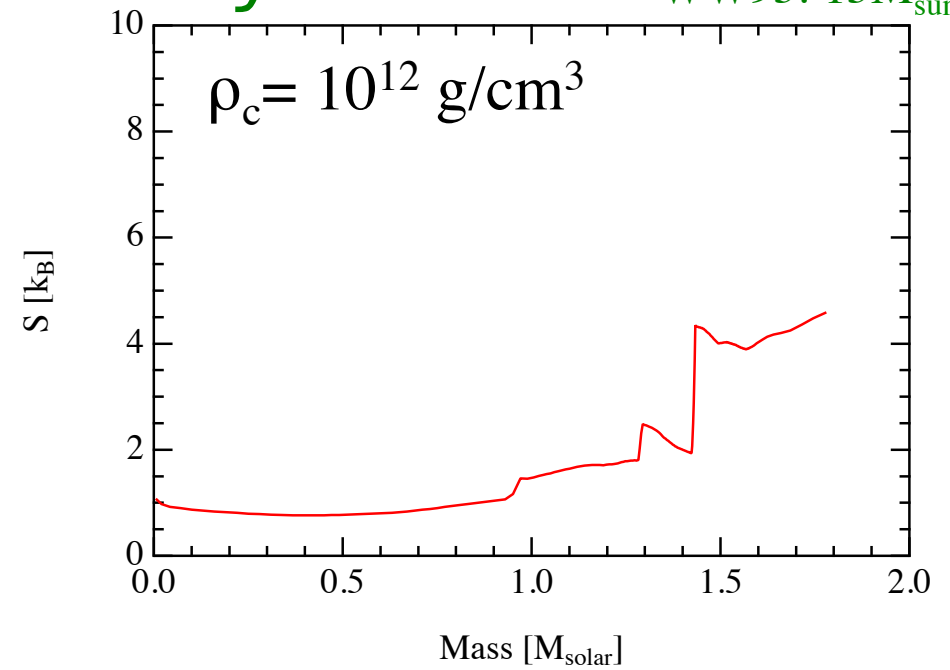
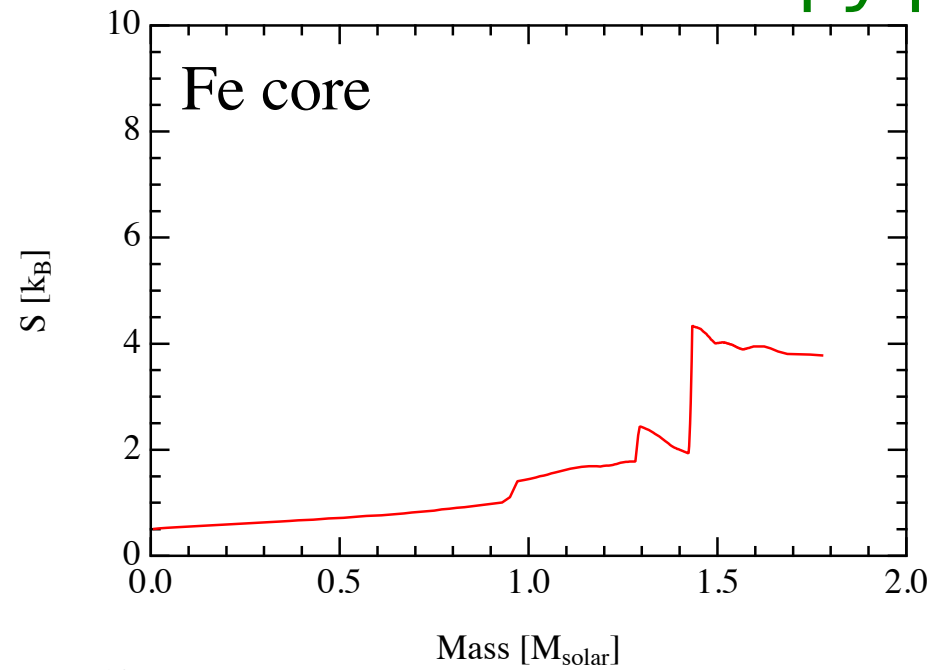


超新星内部での温度変化

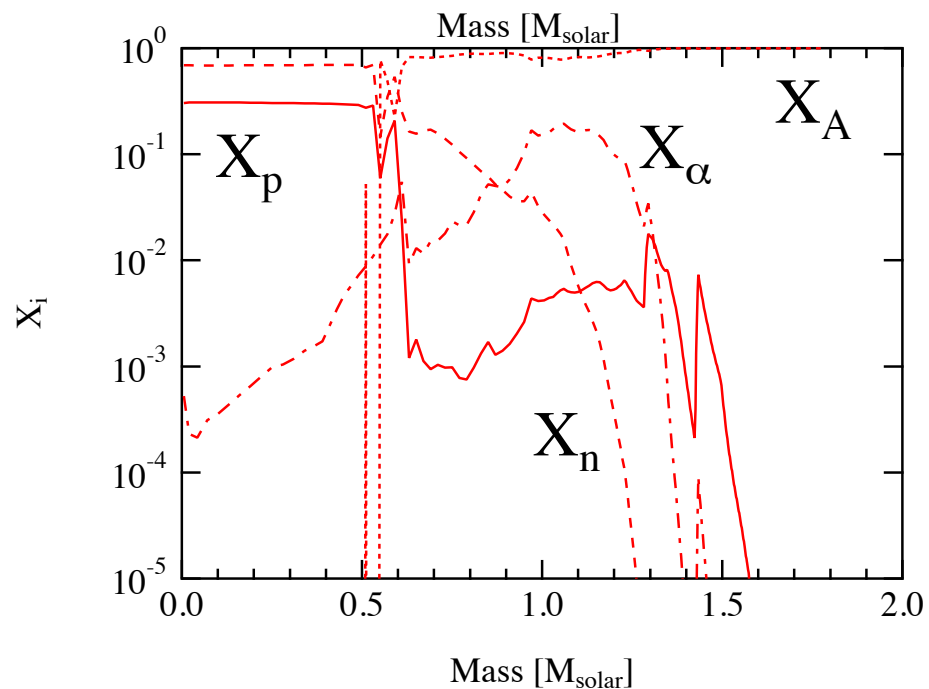
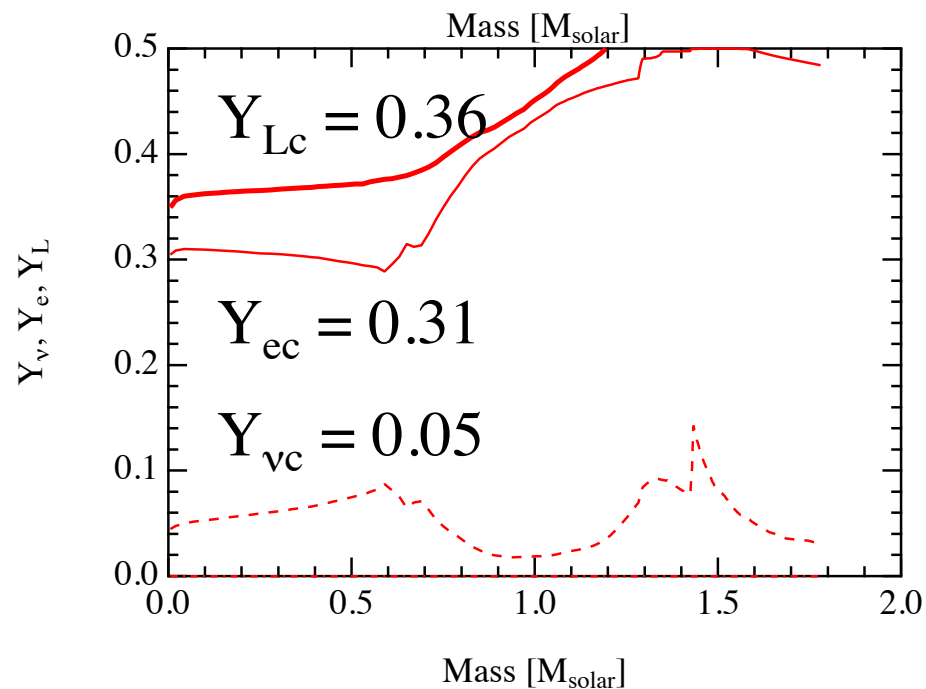
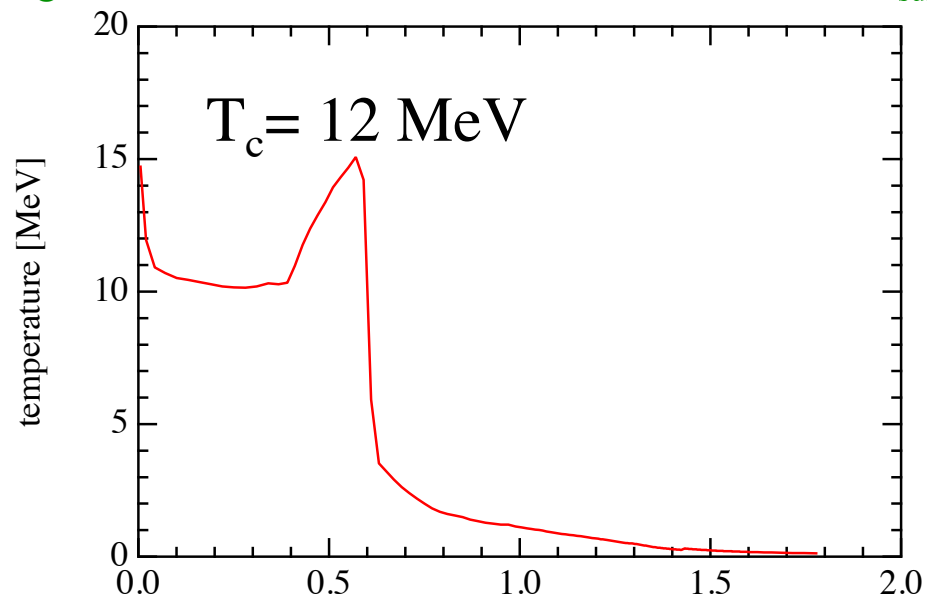
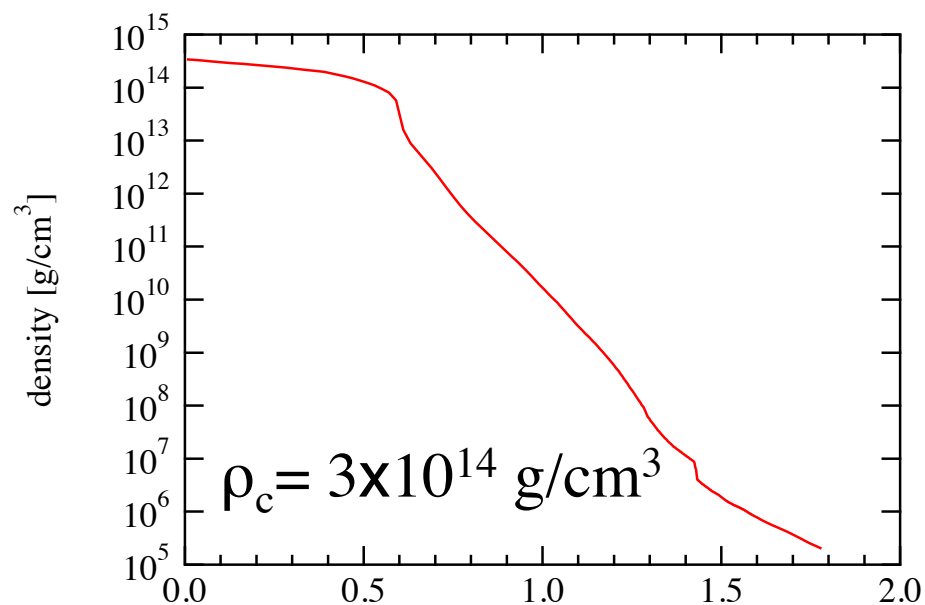
- 重力崩壊:断熱的に圧縮
 - 熱を放出できない: ニュートリノが逃げない
 - $S = (\text{entropy per baryon}) = \text{一定}$
 - 原子核が存在している
 - $S \sim S_{\text{nuclei}} + S_{\text{electron}} + S_{\text{excited state}} \sim S_{\text{electron}} \sim T/\rho^{1/3}$
 - $T \sim 22 \text{ MeV}$ at $\rho = \rho_0 = 3 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3$
- 衝撃波発生、通過時には温度急上昇
 - 原子核が溶ける
- ニュートリノ放出により徐々に冷却($\sim 10\text{s}$)
 - 原始中性子星から中性子星へ
 - 一部は衝撃波背面を温める
- 原始中性子星物質を Y_L, S で特徴づけることが多い

Entropy per baryon

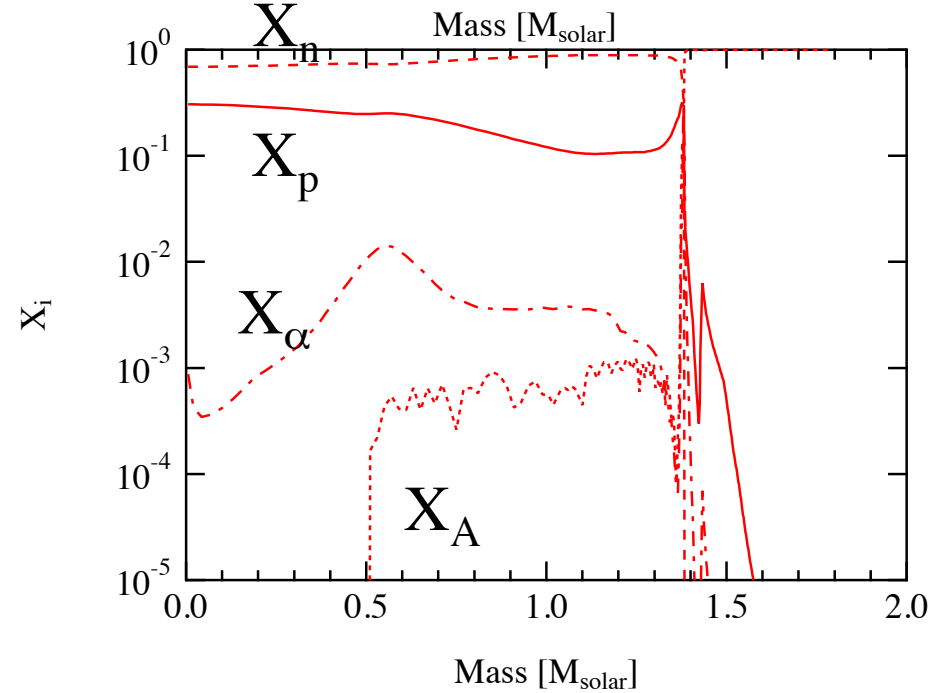
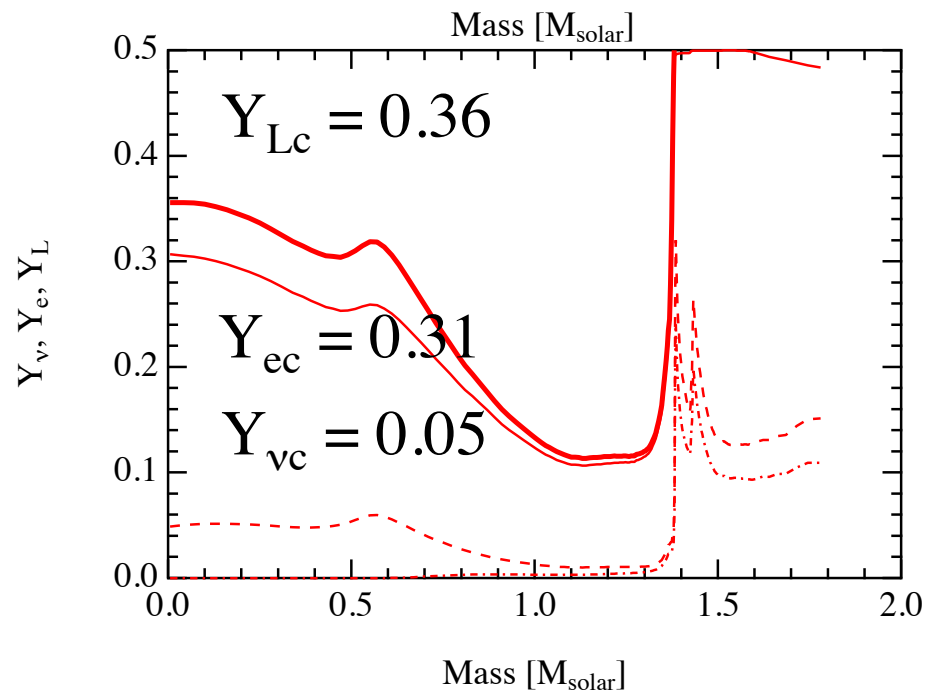
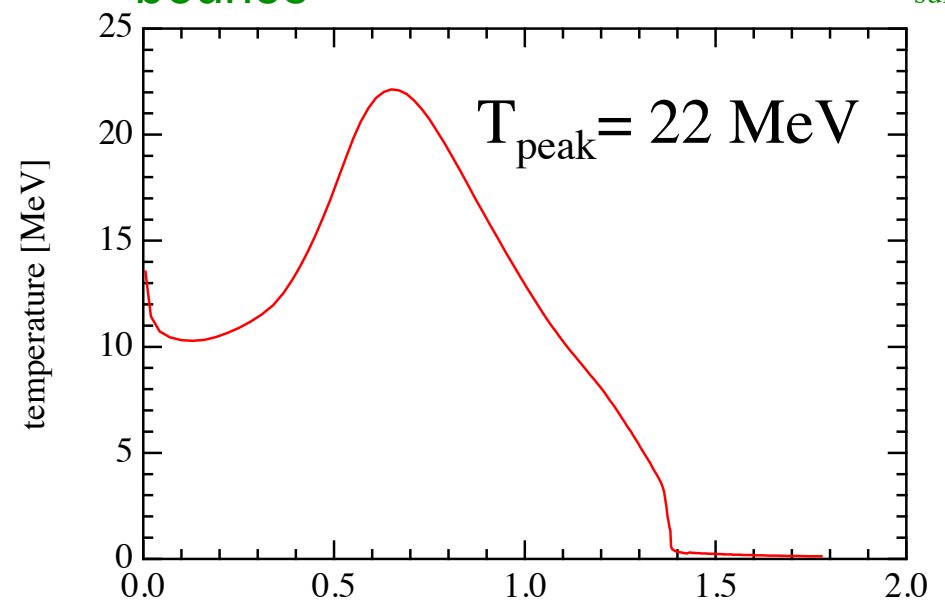
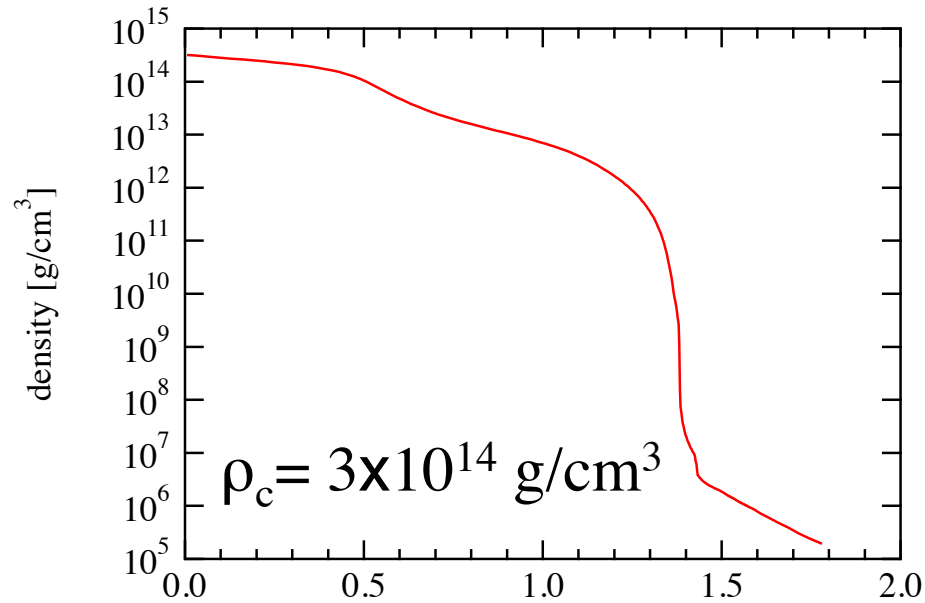
WW95: $15M_{\text{sun}}$



At core bounce: $\rho_c = 3 \times 10^{14} \text{ g/cm}^3$ WW95: $15 M_{\text{sun}}$



After core bounce: $t_{\text{bounce}} = 100 \text{ ms}$ WW95: $15 M_{\text{sun}}$



原始中性子星の状態方程式

- 原始中性子星物質を Y_L , S で特徴づけることが多い
 - 近似だがある程度の性質はわかる
 - $S = (\text{entropy per baryon}) = 1 \sim 2 = \text{一定}$
 - $Y_L = 0.3 \sim 0.4 = \text{一定}$
- ニュートリノ放出により徐々に冷却($\sim 10\text{s}$)
 - 準静的な変化: 原始中性子星から中性子星へ
 - 超新星ニュートリノを放出
- 中性子星あるいはブラックホール?
 - 最大質量は状態方程式で決まる
 - この時に運命が決まる場合もある

原始中性子星の性質

